ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

第26回日本リーグ開幕にむけて

日本ハンドボールリーグ委員長　川上憲太

日本ハンドボールリーグは、昨年より運営組織を日本ハンドボールリーグ機構とし、今年度より市原則之氏を会長に迎え、４分の１世紀25年間を戦った20世紀を終え、新たに21世紀第26回大会が始まろうとしております。しかしながら長引く経済不況に加え、社会構造の変化、企業理念の変化に伴い、日本リーグもまさに正念場をむかえております。第25回大会を最後に名門三陽商会、デンソーが不参加を決定し、まさに日本における企業スポーツの現況を目の当たりにさせられました。一方では、女子の雄イズミが親会社、地域の企業、サポーターに支えられ広島メイプルレッズとして存続参加、男子２部では東京の灯を消すなとばかりにクラブチームＨ・Ｃ東京が立ち上がり参加、また三景がインテックス21と名称を改めて参加、ひそかに一部リーグ復帰をねらっています。今後、このような企業・地域・行政が一体となったクラブチーム化の傾向はさらに加速すると思われます。日本リーグ機構もいち早くこの流れを組み入れ、２チームの参加は満場一致で決定されました。各チームの今後の努力に対して全力で応援するつもりです。皆様もご協力をお願いします。

このような状勢の中から、今年度は日本リーグの維持・継続を柱にさらなる経費節減を計り、新しいリーグのあり方を探り、発展への基礎づくりの年にしたいと考えています。これは決して消極的ではなく、来たる27回・28回大会以降のあり方について、リーグの基本理念である「子どもたちに夢のある環境づくり」「国際レベルでの競技力向上」をもとに「魅力あるエキサイティングゲーム」が生まれるよう準備をしておくということであります。25回大会の観客動員数は、観客動員委員会なども設置し、対策をとり全体にはアップしましたが、女子の方は少しかげりが見えています。リーグ委員、チーム、企業、地域、行政、マスコミと一体となった行動が大切だと思っています。マンネリ・固定観念にとらわれず、足を動かした努力が必要と思います。チーム自身の地元・地域の小・中学生・高校生等々への日頃の働きかけ、ファン作りも大切なことです。

本年８月１日より新しい国際ルールが世界では実施されています。日本リーグは日本のハンドボールの頂点強化と指導普及の最先端にあると考えます。多少現場にはとまどい、支障があると思いますが、それを乗り越えて今26回大会から実施することとしました。早く新ルールに慣れてまじかにせまっている国際試合に役立てていただきたいと思います。

本大会もテレビ中継はプレーオフを含めて多く放映されます。NHK中継はまだ実現しませんが、スポーツニュースの中で必ず取り上げていただくことになっています。

日本リーグのホームページもさらに充実され益々その重要性が高くなってきました。今大会はおそらく昨年の倍の利用になると期待しています。

昨年からチームユニホーム等に協賛スポンサーを付けるよう推進してきましたが、あまり利用されていません。チームとして協賛スポンサー獲得は今後の運営のポイントになっていく部分でもあります。リーグ全体の協賛スポンサーを含めて全員の努力が必要だと思います。

第26回大会は男子一部８チーム、二部６チーム、女子９チームの計23チームです。各チームともチーム力アップにむけて新人・外国人補強等を着実に行っております。それぞれに非常に高度な激戦・接戦が展開されることは必至であります。各新聞社のスポーツ記者も大変注目しております。どうぞファイナルのプレーオフまで限りないご声援ご注目をよろしくお願いいたします。

第６回ワールドゲームズビーチハンドボール競技 兼
第１回ビーチハンドボール世界選手権大会

初代チャンピオンは、
男子ベラルーシ、女子ウクライナ
日本女子は４位に、
男子は５位に

第６回ワールドゲームズ公開競技ビーチハンドボール大会、兼第１回ビーチハンドボール世界選手権大会は、８月23日から25日の三日間、秋田県本庄マリーナ海水浴場で、各大陸からの代表男女各５チームとホスト国日本を含めた各６チームの参加で開催された。

おりからの台風の影響で、初日の試合時間を変更し、初日予定の男女各３試合が、二日目に変更され、午後の開始となった。選手団の秋田入りにも影響が出、代表者会議等も時間を遅くしたが、時間に間に合わないチームが出るという状況であった。

大会の方式は、男女ともに各６チーム総当りの予選リーグを行い、上位４チームが決勝トーナメントを戦い、順位を決定する方式が採られた。決勝トーナメントは、予選リーグ１位対４位、２位対３位で準決勝が行われ、その勝者で決勝、敗者で３位決定戦が行われた。また、予選リーグ５、６位で、改めて５位決定戦が行われた。

参加チームは、男子、ベラルーシ、スペイン、トーゴ、ブラジル、イラン、日本、女子は、ウクライナ、ドイツ、トーゴ、ブラジル、中国、日本の各６チームであった。

優勝の行方は、男女とも決勝戦で「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」を制した男子・ベラルーシ、女子ウクライナが世界選手権初代チャンピオンに輝いた。以下順位戦の結果、男子は、２位・スペイン、３位・ブラジル、４位・イラン、５位・日本、６位・トーゴ、女子は、２位・ドイツ、３位・ブラジル、４位・日本、５位・中国、６位・トーゴの結果となった。

男　子

記念すべき第１回世界選手権の開幕試合は、スペイン対イランで戦われた。予選リーグでは、ベラルーシが日本での１セットを落としたのみの１位で通過した。以下、スペイン、ブラジル、イラン、トーゴ、日本の順位であった。日本の初戦の相手はブラジルであった。第１セットを11―9で取り、幸先よいスタートを切った。しかし、第２セットを８―９で惜しくも落とし、「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」に持ちこまれてしまった。この「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」では、砂場のせいか日本は正確性を欠き、２ポイントしか挙げられなかった。一方ブラジルは、２ポイントシュートを含み、一人余して５ポイントを挙げゲームを物にした。

日本の第２戦の相手はトーゴであった。第１セット、日本は五島のゴールキーパーシュートなどで７分までに11―4とリードを奪っていた。しかしここからトーゴの猛反撃が始まり、４連続の２ポイントシュートで逆転を許した。そのまま11―12で惜しくも第１セットを落としてしまった。第２セットは慎重にゲームを進め、12―８で取り返した。続く「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」では、最後の一人を残して２―４と追いこまれたが、２ポイントシュートで再び「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」に持ちこんだ。２ラウンド目は日本先攻で始まったが、日本は２ポイントシュートを仕掛けて失敗。逆にトーゴは、１点を確実に決めてトーゴがゲームをものにした。日本にとっては惜しい一戦であった。

２日目、日本はヨーロッパチャンピオンのベラルーシと戦った。この一戦、日本にとってはかなり難しい相手と思われたが、第一セットを桜庭、五島の活躍などで13―10で取ることができた。第２セットは、日本が先制するも、ベラルーシに４連続２ポイントシュートを含む猛攻で、６分には３―10と大きく差をあけられた。終盤２ポイントシュートで猛追するも及ばず10―11と落としてしまった。続く「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」では３人が終わって、１―３と不利な状況に追い込まれたが、島野の２ポイントシュートで望みをつないだ。しかし、最後のチャンスで失敗し、またも惜しい試合を落とした。

続くイラン戦では、第一セットを残り１分を切って10―8の２点リード、このまま逃げ切るかに思えたが、イラン

に起死回生の２点シュートを決められ、サドンデスの延長に入った。延長２分、イランに確実に決められ惜しくも第１セットを落とした。第２セットも終始先行し、残り９分過ぎに日本は14―12とリードを保っていたが、ここからイランに３連続で４点を奪われ、逆転を許し、セットカウント０―２で敗れた。

最終のスペイン戦は、第１セットでは終始リードを許し、また３分には３点シュートを決められるなどして落とした。続く第２セットは、先行はしたがスペインの確実な攻めに完敗であった。

日本は、予選リーグでは３試合を「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」に持ち込むも結果は全敗となり、６位で終了した。結果最終日には５・６位決定戦に出場することとなった。

【５・６位決定戦】

５・６位決定戦の相手は、予選では「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」で敗れたトーゴとなった。第１セット、日本はトーゴに２ポイントシュートで得点を稼がれ、８分過ぎには、７―12の５点ビハインド。ここから日本は、桜庭、島野の１点、２点、２点で同点に追いつき、サドンデスの延長に突入。延長では、五島が確実に１点を決めて第１セットを取った。第２セットは、五島、桜庭、岩本で要所を締め、11―９で取り、セットカウント２―０となった。日本は、初の世界選手権を５位で終えた。

女　子

女子の部は、中国とドイツの試合で世界選手権の幕を開いた。この試合、すでに多くの厳しい試合を勝ちぬいてきたチームと、チーム結成間もないチームの差が出た。ドイツはスピード溢れる攻撃で次々と加点し、大差で中国を退けた。

この大会、ウクライナとドイツが有力と見られていたが、予想通りウクライナは、１セットも落とさず全勝で駆け抜けた。ドイツも、日本戦で１セットは落としたが、４勝、２位で通過した。以下、３位ブラジル、４位日本、５位中国、６位トーゴの順で予選リーグは終了した。

日本の初戦の相手は、ブラジルであった。この試合の第１セット、日本はブラジルに先行を許すものの、６分には２ポイントシュートで６―５と逆転。７分には追加得点を挙げ期待を抱かせたが、日本がミスを重ねる間に１点づつを着実に挙げたブラジルが終了間際に再逆転。惜しくも７―８の１点差で第１セットを落としてしまった。続く第２セットは、ブラジルが３連続２ポイントシュートなどを決め快調に飛ばした。日本は、６分には３―９と苦しい戦いであったが、上出をＧＫにチェンジするなどして猛反撃を試み、残り１分には同点に追いついた。この後すぐに、２ポイントシュートを決められたが、日本も小松のスカイシュートで２点を挙げ、延長サドンデスに入った。延長１分、ブラジルに確実なシュートを決められ、第２セットも１点差の惜敗で、セットカウント０―２で初戦を落とした。

第２戦の相手はアフリカのトーゴ。第２戦ともあって、日本は動きもよくなり、第１セット、第２セットとも着実に得点を重ね、世界選手権の初勝利を飾った。小松の活躍が目立った試合であった。

第３戦の相手は、チーム結成以来まだ日の浅い中国であった。日本は３試合目ともあって、思い通りのプレーを展開。上出と沖土居の活躍で２勝目を挙げた。

第４戦は、ヨーロッパの強豪ドイツであった。ドイツはヨーロッパの強豪らしく着々と得点を重ね、日本は３分には早くも２―８と水をあけられた。しかし日本もここから、熊谷、沖土居等で踏ん張り、終了間際に上出が２ポイントシュートを決めて、12―12の同点で延長サドンデスに入った。延長に入るとすぐさま小松が１点を確実に決めて第１セットをものにした。上位進出のためには大きな大きなセットであった。続く第２セットは、ドイツが猛反撃に出た。早い攻撃から確実に得点を積み重ね、守っては日本の２ポイントシュートを許さず、14―８でドイツが第２セットを取った。

セットカウント１―１の後の「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」では、日本は着実に１点づつを取り、５点を挙げた。一方のドイツは、途中でダイレクトゴールを決め、４人終わったところで５得点。最後の一人が確実にシュートを決めれば勝利が確定するところであった。しかし、ここで思いも及ばないことが起きた。７人制の元ドイツ代表でもあるＧＫが、丁寧にプレーをしようとして硬くなったかボールをキャッチミス、再度サドンデスの「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」となった。

サドンデスでは、まず日本の先攻で始まったが、股下を狙ったシュートのバウンドがイレギュラー、ゴールの外に跳ねてしまった。大観衆のため息の中、ドイツが確実に決め、日本は大きな１勝を逃した。

予選リーグ最後の相手は、ヨーロッパチャンピオンのウクライナ。第１セットは、ウクライナのディフェンスを攻めきれず、５―14で大敗。第２セットも、上出、沖土居で奮戦するも９―13でおとし、セットカウント０―２で敗戦となった。

予選リーグは、２勝３敗の４位で準決勝に進出することとなった。

＜準決勝＞

準決勝、日本の相手は前の試合と同じウクライナ。予選リーグ１位と４位の試合ではあったが、第１セット日本は互角にゲームを進め、６分までで７－７のタイスコアーで

あった。ここからウクライナは、２ポイントシュートでリードを奪うと着実に1点づつを積み重ね、終わってみれば９―14でセットを落とした。第２セットは、ウクライナが開始早々から２ポイントシュートを積み重ねリードを奪う。日本も熊谷で踏ん張り、７分には２点差まで詰め寄るも届かずこのセットも失ってしまった。結局セットカウント０－２で３位決定戦に廻った。

＜3位決定戦＞

メダルを賭けた戦いの相手は、初戦で敗れたブラジルであった。２セットとも１点差で落とした相手だけに、今度こそはと期待を膨らませた。第１セット日本は、ブラジルディフェンスを攻め倦み、６分には３－７とリードを奪われる。ここからは両チーム１点シュートの応酬でゲームは動かず７―10でブラジルがセットを取った。第２セット、日本は２ポイントシュートを狙うが、ブラジルディフェンスはこれを阻止した。逆にブラジルは４分、２ポイントシュートを２連続で決めて差を広げた。ここから両チームとも１ポイントシュートを着実に決めたが、結局セットは12―６でブラジルが取り、銅メダルを獲得した。

残念ながら日本はメダルに届かず、第１回の世界選手権を４位で終えた。

大会終了後直ちに、薄暮の中ワールドゲームズの表彰式が行われた。また、世界選手権の表彰式が、本部ホテルに於いて行われ、個人賞が発表された。日本からは、ミスタービーチハンドボールに岩本、Most Attractive Player（敢闘賞）に沖土居、最優秀新人監督に荷川取監督が選ばれた。受賞者は別表の通り。

試合結果

＜男子＞

■５―６位決定戦

日本 2―0 トーゴ

■準決勝

ベラルーシ 2―0 イラン

スペイン 2―0 ブラジル

■３―４位決定戦

ブラジル 2―1 イラン

■決　勝

ベラルーシ 2―1 スペイン

【男子】予選リーグ

順　位		BLR	ESP	BRA	IRI	TOG	JPN	数	勝	分	敗	得セット	失セット	得失セット差	勝点
1.	ベラルーシ (BLR)		2○0	2○0	2○0	2○0	2○1	5	5	0	0	10	1	9	10
2.	スペイン (ESP)	0●2		2○0	2○0	2○0	2○0	5	4	0	1	8	2	6	8
3.	ブラジル (BRA)	0●2	0●2		2○0	2○0	2○1	5	3	0	2	6	5	1	6
4.	イラン (IRI)	0●2	0●2	0●2		2○1	2○0	5	2	0	3	4	7	－3	4
5.	トーゴ (TOG)	0●2	0●2	0●2	1●2		2○1	5	1	0	4	3	9	－6	2
6.	日本 (JPN)	1●2	0●2	1●2	0●2	1●2		5	0	0	5	3	10	－7	0

※勝敗（○・●）の上が得セット、下が失セットを表す。

<女子>

■5－6位決定戦

中　　国　2－1　ト　ー　ゴ

■準決勝

ウクライナ　2－0　日　　本
ド　イ　ツ　2－1　ブラジル

■3－4位決定戦

ブラジル　2－0　日　　本

■決　勝

ウクライナ　2－1　ド　イ　ツ

［最終順位］

<男子>

優勝　ベラルーシ　　2位　スペイン
3位　ブラジル　　4位　イ ラ ン
5位　日　　本　　6位　ト ー ゴ

<女子>

優勝　ウクライナ　2位　ド イ ツ　3位　ブラジル
4位　日　　本　5位　中　　国　6位　ト ー ゴ

［表彰選手］

<男子>

得点王　Ubozhanka（ベラルーシ）
Most Attractive Player　Latekove（ト ー ゴ）
ミスターハンドボール　岩本正典（日　本）
ベストGK　Garson Silva（ブラジル）
ベスト新人トレーナー　Mehdi（イ ラ ン）
MVP　Icarlos Cortes（スペイン）

<女子>

得点王　Lucha Silva（ブラジル）
Most Attractive Player　沖土居真子（日　本）
ミスハンドボール　Lucha Silva（ブラジル）
ベストGK　Christine Lindemann（ド イ ツ）
ベスト新人トレーナー　荷川取義浩（日　本）
MVP　Li Jing Jing（中　国）

第1回ビーチハンドボール世界選手権大会を終えて

(財)日本ハンドボール協会
ビーチハンドボール委員長　本間　誠章

Aコートでは男子決勝戦が終わり、Bコートでは女子決勝戦が熱戦を繰り広げているとき、会場役員が国旗掲揚塔の作成や、コート整備、表彰台の運搬等ワールドゲームズ表彰式の準備をしているのを見ながら、よくここまでの大会が出来たものだと思い、感無量であった。

日本でビーチハンドボールを始めて2年目の時だったと思う。日本ハンドボール協会から「第6回ワールドゲームズが日本の秋田県で開催されるので、ビーチハンドボール

【女子】予選リーグ

順位		UKR	GER	BRA	JPN	CHN	TOG	数	勝	分	敗	得セット	失セット	得失セット差	勝点
1.	ウクライナ（UKR）	＼	2○0	2○0	2○0	2○0	2○0	5	5	0	0	10	0	10	10
2.	ドイツ（GER）	0●2	＼	2○0	2○1	2○0	2○0	5	4	0	1	8	3	5	8
3.	ブラジル（BRA）	0●2	0●2	＼	2○0	2○0	2○0	5	3	0	2	6	4	2	6
4.	日本（JPN）	0●2	1●2	0●2	＼	2○0	2○0	5	2	0	3	5	6	－1	4
5.	中国（CHN）	0●2	0●2	0●2	0●2	＼	2○1	5	1	0	4	2	9	－7	2
6.	トーゴ（TOG）	0●2	0●2	0●2	0●2	1●2	＼	5	0	0	5	1	10	－9	0

※勝敗（○・●）の上が得セット、下が失セットを表す。

が参加できるように努力をしてほしい」との依頼がＩＨＦよりあったとの連絡を受けた。その後、ワールドゲームズ事務局の会議に参加するようにとの連絡が私の元に届き、毎年行われるワールドゲームズフェアーに、秋田県ハンドボール協会の協力を得て1998年に秋田市内の運動公園へダンプカーで山砂を運び込み、開催当日千葉県より選手役員が手伝いに駆けつけ整地・コート作成を行い、東北で初めてのビーチハンドボールを多くの人々に体験させることができた。

1999年には、秋田市の浜田浜海岸がビーチハンドボールのワールドゲームズ開催地として候補にあがり、その海岸でゲームを行うこととなった。しかし、東北にはビーチハンドボールができるチームが秋田大学にしかなく、関東から２チームの参加をお願いしたが、秋田までの旅費の工面に奔走せざるを得なかった。何とか資金を集めて参加し、大会が開催できたが、一般観衆が集まらず、おまけに雨交じりの突風に試合を中断する状態となった。だが、ここまでの評価が秋田ワールドに参加させてくれるかどうかの瀬戸際と考え、事あるごとに東京の会議、秋田の会場と忙しく動きながらＩＷＣＡ本会議の参加種目の決定を待った。

この年、秋田ワールドゲームズ参加種目の発表があり、ビーチハンドボールが公式競技として認められず、公開競技としての参加が認められた。理由は「まだ世界選手権大会が一度も開催されていない。少なくとも２～３回実施していれば公式競技の仲間になれたことだろう」ということであった。

私たちの動きも忙しくなった。ワールドゲームズの会場が秋田市浜田浜から本荘市本荘マリーナ海水浴場に変わったという連絡を受け、見たこともない場所なのですぐに本荘の海水浴場を見に行った。町並みには近いし、砂はきれいであり、広い、ワールドゲームズ会場には最高の場所である。問題はビーチハンドボールを理解してもらうことだと考え、2000年のリハーサル大会を第２回全日本ビーチハンドボール大会の会場と決め、秋田県ハンドボール協会と、本荘市教育委員会スポーツ課に全面的に協力をお願いして実施することになる。問題は「参加するチームが集まるか」であった。関東のチームが秋田に行くには遠い、東北にチームを作らなければと思い、青森県協会にお願いをして野辺地町で講習会を開いてもらい、ビーチハンドボールを知ってもらうと同時に、秋田の全日本大会に参加してくれるようにお願いをする。また、大会前に秋田県協会と本荘市にお願いをして講習会を開催、多くの町民にビーチハンドボールを体験し理解してもらう機会を得た。しかし、大会開催日は近くなったが、チームが集まらない。日本ハンドボール協会にチーム集めをお願いして何とか大会が開催できる状態となり、ホッとした。その結果は、内容は充実しており、試合も好ゲームが続き、観客も多くの人々が見学にきて盛況であった。

大会が終了してホッとするまもなく、ＩＨＦより2001年２月ブラジルにて第１回の世界選手権大会を開催するため、アジア予選を行い出場国を決定するようにとの連絡が入った。突然の世界選手権大会開催、５大陸より代表を出すための予選会開催、それも日本でワールドゲームズ開催の年に、ビーチハンドボール関係者の中に一抹の不安がよぎった。「まさかビーチハンドボールが競技スポーツに！　そんなことはないビーチハンドボールはあくまでレジャースポーツ」。しかし、今は考えている暇はない。ワールドゲームズ開催には外国のチームと一度試合を経験しておく必要もあるし、知識も得たい。またワールドゲームズ開催国が世界選手権アジア予選に出ないというわけにもいかない。時間がない、参加申し込み、選手選考、出場のための経費、すべて日本協会の援助のもとに実施した。ただ選手選考についてはいろいろな意見もあったが、今までのビーチハンドボール経験者の中から選考することにした。男子チームのみの参加で、一度も国際試合の経験を持たない素人集団ではあったが、情熱だけはあった。一度もチームを組んでいない者たちがはじめて合宿で顔をそろえ、自己紹介から始まり、全体のコミュニケーションを大切にしながら、日中は浜辺で、夜は11時、12時までミーティングをする毎日だった。

男子優勝のベラルーシ

アジア予選大会も近づきユニホームの発注も済み、最後の仕上げのための合宿通知を出そうとした時、イランより「アジア予選出場国が日本とイランの２カ国のため大会を中止し、日本はブラジルの世界選手権へ、イランは日本のワールドゲームズ大会へ参加を決定する」との連絡があった。選手たちは、初めての世界選手権出場に決定した喜びに燃えた。だがそれもつかの間、イランより「世界選手権にはイランが出る」と連絡がきた。ブラジルの世界選手権大会の申し込みをしなければならないときに突然このように言われてもと、我々は断固反対をし、交渉を日本協会にお願いした。大変な努力を経た後、日本協会からアジアは２カ国の出場が認められたという返事を受け、再度希望を持って合宿へと思った矢先、今度はブラジルが世界選手権の開催を中止するとの連絡、「万事休す」である。ここに第１回ビーチハンドボール世界選手権大会出場メンバーは幻と消えてしまった。ビーチハンドボール2000年の熱きそして悲しい思い出であった。

2001年、今年は第６回ワールドゲームズ本番の年である。気持ちを切り替えて頑張ろうと思った矢先、今度はＩＨＦより「日本で行われるワールドゲームズを第１回ビーチハンドボール世界選手権とする」との通知が入った。日本協会はこれを受け直ちに秋田ワールドゲームズ事務局と交渉に入り承認を取る一方、秋田県ハンドボール協会、本荘市

等の了解を受けた。参加チームは５大陸代表プラス日本の計６チームの男女。今度は本物だ、あとはやるしかない。見たこともない外国のチーム、どのようなゲームをするのか見たくて、ドイツへ行ってみたが見ることができずに帰国をする。

代表チームの選手選考は、ビーチハンドボールを理解していないと無理な面があるので最終決定は５月の第５回関東ビーチハンドボール大会（千葉県富浦町で開催）で決定をすることにして選考に入る。選手選考はビーチハンドボールに関係をした指導者に集まってもらい決定し、男子は三景の福士氏、女子は北國銀行の荷川取氏に選手強化を頑張ってもらった。

６月にウクライナでのルール・レフリー講習会が開催されるとの連絡を受け、日本からも参加した。その結果、新たに加えなければならないルールの問題が生じ、再度秋田県で講習会を開いたり、国内大会に適応させたりと大慌てであった。

世界選手権の会場設営は日本協会・秋田ワールドゲームズ事務局・秋田ハンドボール協会・本荘市にお願いをして準備を進めてもらいながら、私は８月４・５日の第３回全日本ビーチハンドボール大会(兵庫県神戸市で開催)、８月18・19日の第５回全国ビーチハンドボール大会（千葉県富浦町で開催）で審判・デリゲートの問題解決に当たった。

全国大会終了後、後片付けは役員に任せ、20日の早朝に秋田入りをして、コート作成にかかったが、あいにくの台風で思うように仕事が進まず、台風の去るのを待った。23日の台風が去ったのを見て早朝海岸に行って驚いた。昨日設置した選手用のテントの足まで海水がきているなど大会

優勝の瞬間、喜ぶウクライナチーム

会場の半分が波に洗われているではないか。土地の人に聞いてもこんなことは初めてだという。台風による異常潮位と満潮が重なった現象であった。秋田県の方々が朝６時に集合して会場作成にあたってくれたおかげで、半日遅れの午後からの大会開催の運びとなった。立派な会場である。ＩＨＦ役員の方々も見て満足をしてくれたようである。ＩＷＣＡ会長も突然会場に現れ（予定にはなかった）見学し、大変満足してくれた様子であった。あとは試合運営にトラブルがないようにすることと、日本チームの試合だ。

男子は接戦を繰り返すが勝運つかず５位に、女子も頑張ってくれたが最後の決定戦に敗れ惜しくも４位に、またゲームごとに観衆も多くなり最終日にはスタンドに入りきれず場外からも声援を送ってくれていた。

最後に、大会を見ていてＩＨＦがワールドゲームズにビーチハンドボールを参加させ、第１回の世界選手権大会を開催したことは、２年後には第２回の大会も開催するであろうし、第７回ワールドゲームズがドイツで開催されるとき、公式競技として申し込むであろう。これはオリンピックを目標としたステップであり、今後のビーチハンドボールのあり方に大きな波紋を投げかけてくることでしょう。

本来、この競技はレジャースポーツとして各国に広まっているものであり、今大会でも楽しさを求めたものであった。しかし競技者とすれば勝敗から逃れることは難しいと思われる。競技性を求めるか、レジャー性を求めるか現在のＩＨＦ自体が考慮しているところだとも言っていた。

現在の日本のビーチハンドボールとは違い、今回の大会を見て、私自身レジャーを目的としたスポーツであったはずなのにと感じたし、参加した選手からもそのような話が出てきていたと聞き、今後の運営の難しさを痛感した。

とにもかくにもあわてた第１回のビーチハンドボール世界選手権大会ではありましたが、関係各位のご理解とご協力を頂き、予想以上の大成功に終わりましたことをご報告いたします。

雑　感

連日大いに盛り上がった大会

第１回ビーチハンドボール世界選手権大会として開催されたワールドゲームズビーチハンドボール競技は、連日大いに盛り上がった。特に日本戦には立ち見も出るほどの盛況振りであった。初日から当日券は売れ切れ状態にもかかわらず、チケット販売所に親子連れの観戦客が訪れるという状態であった。それでも、入場できなかった人たちが、練習コートの外側遠くから、ゲームを観戦する列ができるという状態であった。

観客からは、世界のスーパープレーに惜しみない拍手が送られ、ハンドボール会場では久々に観客のウェーブが起きた。これも、盛り上げアナウンサーの、山下さん、松原・河合氏の観客へのアピールが功を奏していた。また、この盛り上げアナウンサーは、ＩＨＦ役員にも好評だった。観客の皆さんは浜辺の開放感もあり、より一層ビーチハンドボールを楽しんでいた。

20世紀最高のハンドボールプレヤー本荘に現れる

昨年６月、20世紀最高のハンドボールプレーヤーがＩＨＦにより男女一名づつ選ばれたが、その女性の部に選出されたシナイダ・ツルチナさんが本荘のビーチハンドボール会場に現れた。（機関誌414号既報）1970年代から80年代には、オリンピック・世界選手権において何度も金メダルを手にしている旧ソ連の超スーパースター。1980年のジャパンカップにも来日し、そのプレーを披露している。現在はウクライナ所属で、ウクライナのビーチハンドボールチームに同行された。

第13回女子ジュニアハンドボール世界選手権大会報告

若い人に、メダルの懸かる厳しい試合の経験を豊富に

㈶日本ハンドボール協会監事　殿水　幸雄

試合結果に、「たら」とか「もし」はなく、戦績のみが評価となるのは当然です。今回の８戦８敗、参加20ヶ国中の20位の成績は誠に遺憾な結果で、ご支援を頂いた多くの皆さんに大変申し訳無く、心からお詫びを申し上げたいと思います。しかしながら、内容は予選リーグ、大会３位のドイツ戦で、日本が前半１点をリードしたり、８位のスウェーデン戦では前半・後半を通して１点差で大接戦をする等、大会を多いに盛り上げ、日本強しの印象を予選リーグ前半で各国に与えたのも事実でした。しかし、どの試合も後半最後の数分間でのスタミナ、粘り、強力な個人技の不足が露呈し、勝ち星を拾えなかったこと、そして何よりもこのような激しい国際試合の経験不足が大きかったと思います。

今回の日本チームは一番身長の低いチームでしたが、それを補うディフェンス力は素晴らしく訓練され、強いアタックとすばやいフォローは、１試合の平均失点23.5点と大会参加中第５位と高水準でした。攻撃面では１試合平均19.1点で19位となり、大会参加チーム平均25点(最高はロシアの34点、２位ハンガリー─31点）と比較してもかなり低かった。今後の課題としては、得点を少なくとも25点以上あげられるチーム作り、編成が必要だと思います。

ディフェンス面の成果の裏には、監督・コーチによるパソコンを駆使して深夜に及んだ対戦相手の攻撃パターンと、自軍の問題点分析により、映像を使ってポイントを絞った的確な指揮によるものが、非常に大きかったと思います。

スタッフの働きの中で、デンマークからわざわざ駆けつけてくれ、ゴールキーパーの練習指導を担当し、お姉さん的立場で選手たちの相談役・激励役を果たしてくれた元ジャスコの松尾香代さんの存在は大変貴重でした。今後、女子の育成・指導の面からも、女性の若い指導者と専門分野（ゴールキーパー）の指導者育成が日本ハンドボール界にとって大切な課題であろうと考えます。

今回の大会を通じて感じた、今後日本が国際舞台で活躍するために最も必要なことは、世界に通じる体力（スタミナ・パワー）とメダル・順位を争う厳しい国際試合の豊富な経験ではないかと感じます。体力も日本の中で他チームに勝てるというレベルでなく、各チームの目標が国際レベルでなければ、何時までたっても井の中の蛙で終わってしまうのではないでしょうか。また、国際試合も数だけでなく、メダル・順位を国単位で争う厳しい大会への経験を若いうちに積ませることが最も大切ではないかと思います。特にジュニアの大会に選ばれる選手は高校を出て１年目・２年目の選手が主で、自チームにあっても、新人または若手で、レギュラーとして常時試合に出られない選手も多く入ってきますから、当然国際試合の経験は乏しくても日本という国際試合環境からすれば仕方のないことかもしれません。しかし、この伸び盛りの年代にいる若い選手こそ、将来を見据えて選手の選考をし、長い目で各チームの協力を得て、一人でも多くの将来性豊かな選手を国際舞台に送り出すべきではないでしょうか。

今回の大会を観て、世界のレベルはまだヨーロッパ中心と言え、体力、個人技はアフリカも南米も凄く接近してきていると思いますし、アジアもオリンピックを控えて本格的強化に取り組み出した中国、急激に男女共レベルアップしてきた台北、そして強豪韓国を交えて激戦地区になってきており、日本も日本ハンドボール協会が進める「ナショナル・トレーニング・システム」への多くの方々の理解と、協力が緊急の課題だと思います。そして、ハンドボールにかかわっている皆が、日本代表チームの国際舞台での活躍に一役買う心意気と行動力が今必要だと感じております。

試合結果

■予選リーグＡ組

ロシア	35─30	スペイン
ロシア	36─30	韓国
ロシア	42─24	オランダ
ロシア	38─17	中国
スペイン	35─22	韓国
オランダ	24─23	スペイン
スペイン	27─19	中国
韓国	30─24	オランダ
韓国	23─20	中国
オランダ	24─24	中国

(順位)①ロシア②スペイン③韓国④オランダ⑤中国

■予選リーグＢ組

ルーマニア	24─21	デンマーク
ルーマニア	34─23	ユーゴスラビア
ルーマニア	27─22	ブラジル
ルーマニア	36─24	チュニジア
デンマーク	30─22	ユーゴスラビア
ブラジル	25─24	デンマーク
デンマーク	28─26	チュニジア

ユーゴスラビア 22—16 ブラジル
ユーゴスラビア 30—22 チュニジア
ブラジル 30—18 チュニジア
(順位)①ルーマニア②デンマーク③ユーゴスラビア
④ブラジル⑤チュニジア

■予選リーグC組

ドイツ 28—20 スウェーデン
ドイツ 28—27 トルコ
ドイツ 30—16 タイペイ
ドイツ 28—23 日本
スウェーデン 28—23 トルコ
スウェーデン 25—18 タイペイ
スウェーデン 19—18 日本
トルコ 34—20 タイペイ
トルコ 26—22 日本
タイペイ 24—17 日本
(順位)①ドイツ②スウェーデン③トルコ
④チャイニーズタイペイ⑤日本

■予選リーグD組

ハンガリー 34—20 クロアチア
ハンガリー 32—24 ノルウェー
ハンガリー 29—19 アンゴラ
ハンガリー 26—11 アルゼンチン
クロアチア 25—22 ノルウェー
クロアチア 31—18 アンゴラ
クロアチア 38—13 アルゼンチン
ノルウェー 26—19 アンゴラ
ノルウェー 35—21 アルゼンチン
アンゴラ 20—14 アルゼンチン
(順位)①ハンガリー②クロアチア③ノルウェー
④アンゴラ⑤アルゼンチン

■準決勝リーグⅠ組

ロシア 35—30 スペイン
スペイン 35—21 ルーマニア
スペイン 27—25 デンマーク
スペイン 35—22 韓国
スペイン 26—17 ユーゴスラビア
ロシア 28—28 ルーマニア
ロシア 35—27 デンマーク
ロシア 36—30 韓国
ユーゴスラビア 31—30 ロシア
ルーマニア 24—21 デンマーク
ルーマニア 28—28 韓国
ルーマニア 34—23 ユーゴスラビア
デンマーク 25—24 韓国
デンマーク 30—22 ユーゴスラビア
韓国 36—27 ユーゴスラビア
(順位)①スペイン②ロシア③ルーマニア④デンマーク
⑤韓国⑥ユーゴスラビア

■準決勝リーグⅡ組

ドイツ 24—22 ハンガリー
ノルウェー 23—19 ドイツ
ドイツ 28—20 スウェーデン
ドイツ 34—22 クロアチア
ドイツ 28—27 トルコ
ハンガリー 32—24 ノルウェー
ハンガリー 28—17 スウェーデン
ハンガリー 34—20 クロアチア
ハンガリー 42—16 トルコ
ノルウェー 27—16 スウェーデン
クロアチア 25—22 ノルウェー
ノルウェー 30—26 トルコ
スウェーデン 21—18 クロアチア
スウェーデン 28—23 トルコ
クロアチア 39—26 トルコ
(順位)①ドイツ②ハンガリー③ノルウェー④スウェーデン
⑤クロアチア⑥トルコ

■順位決定戦Ⅰ組

チュニジア 27—24 アルゼンチン
チュニジア 28—27 オランダ
チュニジア 29—28 タイペイ
アルゼンチン 16—15 オランダ
アルゼンチン 24—20 タイペイ
オランダ 28—19 タイペイ

■順位決定戦Ⅱ組

ブラジル 27—17 アンゴラ
ブラジル 23—21 中国
ブラジル 19—18 日本
アンゴラ 25—24 中国
アンゴラ 25—21 日本
中国 22—11 日本

■19—20位決定戦

タイペイ 25—23 日本

■17—18位決定戦

中国 26—25 オランダ

■15—16位決定戦

アンゴラ 24—15 アルゼンチン

■13—14位決定戦

ブラジル 35—21 チュニジア

■11—12位決定戦

トルコ 34—26 ユーゴスラビア

■9—10位決定戦

韓国 29—21 クロアチア

■7—8位決定戦

デンマーク 22—20 スウェーデン

■5—6位決定戦

ルーマニア 34—30 ノルウェー

■準決勝

ハンガリー 31—25 スペイン
ロシア 33—32 ドイツ

■3—4位決定戦

ドイツ 26—22 スペイン

■決勝戦

ロシア 29 (15—11 / 14—16) 27 ハンガリー

第6回ジャパンオープンハンドボールトーナメント兼 第57回国民体育大会リハーサル大会

男子は香川クラブが3年ぶり4回目の優勝 女子はあじこめ（神奈川）が初優勝

第６回ジャパンオープンハンドボールトーナメントは、８月13日から16日まで、高知県民体育館をメイン会場に、高知南高校体育館、高知西高校体育館、高知小津高校体育館、高知女子大学池キャンパス体育館で、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた男子32チーム、女子16チームで熱戦が繰り広げられた。

男子の部は、日新製鋼と香川クラブの決勝戦となり、香川クラブが３年ぶりにチャンピオンに返り咲いた。

女子の部では、神奈川のあじこめが危なげない戦い振りで決勝へと駒を進め、今年こそと意気込む香川銀行チームハンドを、20—15で下し、初優勝を飾った。

男　子

男子の部１回戦では、強豪チームが順当に勝ちあがった。シードチームでは、小松ウェンズデーがSOCIO　OSAKAに敗れ、敗退した。北送会（長崎）対スワロークラブ戦は、延長でも決着がつかず、７ｍスローコンテストの末、スワロークラブが勝ち上がった。

２回戦では、チーム群馬対福島クラブ戦、若鮎会(熊本)対日新製鋼戦が好試合となった。チーム群馬対福島クラブの一戦は、後半群馬が追い上げるが、肝心なところでミスが出てしまい得点につながらず、結局23—29で福島クラブが勝利をものにした。若鮎会対日新製鋼の一戦は、立ち上がりから点の取り合いとなり、前半を16—17の日新１点リードで終えた。後半に入り若鮎会が２人の退場者を出したが、日新はリードを広げることができず、緊迫した試合展開となった。後半22分、29—30の１点差であったが、ここから若鮎会のミスから日新が得点を重ね、結局29—35で熱戦をものにした。若鮎会の若さあふれる溌剌としたプレーが印象に残る好ゲームであった。

大会の展開は、シードチームがほぼ順調に勝ち上がり、ベスト４は、昨年と同じ大同クラブ、香川クラブ、氷見クラブ(昨年度ケーブルネット氷見)、日新製鋼の４チームとなった。

［準決勝］

香川クラブ　24（12—8／12—10）18　氷見クラブ

氷見クラブは、中川によって先に先制点をとる。準決勝ともあって両チームともディフェンスが堅く、ポストも苦戦していた。そんな中、香川クラブの田中のロングシュートが連続で決まるなど、香川クラブのシュートミスが少ない。それ以降、前半終了まで香川クラブは相手にリードを許すことがなかった。後半、両チームとも相手チームを把握した勢いのあるプレーが見られた。氷見クラブ小川のロ

香川クラブ、田中のロングシュート

ングシュートが決まるなど３点差まで詰め寄るが、香川クラブが逃げ切り勝利に終わった。

日　新　製　鋼　30（14―16／16―11）27　大同クラブ

序盤から点の取り合いとなり、お互い一歩も譲らない試合展開。前半23分、日新製鋼野中の退場により、大同クラブが優位に立つが、日新製鋼の必死の守りを前に点差を広げることができない。後半８分、日新製鋼が１点リードした直後に武田が退場となり再び大同クラブが優位に立つ。しかしＧＫ森の好セーブもあり、リードを奪うことはできず。徐々に波に乗る日新製鋼は点差を広げ、30―27で決勝へと駒を進めた。

［３位決定戦］

大同クラブ　24（９―９／15―７）16　氷見クラブ

序盤から氷見が積極的に攻めるが、大同の高い守りに阻まれる。その後もパワーと高さで勝る大同が試合を有利に進めているかのように見えたが、パスミスや氷見のＧＫ関の好セーブにより点差を広げられず、９―９の同点で折り返す。後半開始直後、氷見が得意の速い攻めで２点差とするが、大同の林が攻撃参加すると５点連取と猛攻を見せる。その後も波に乗った大同が氷見の必死の追い上げを振り切り、24―16で勝利した。

［決勝戦］

香川クラブ　24（10―８／14―８）16　日　新　製　鋼

開始直後から香川クラブが足を使った攻撃を見せ、４連続得点をあげて勢いをつけた。日新製鋼もポストを使った攻撃を中心に、一時は１点差まで詰め寄ったが、前半を10―８の香川クラブ２点リードで終えた。後半に入って、香川クラブの足を使った攻撃の勢いはさらに増し、日新製鋼の攻撃も香川クラブのＧＫ黒川の好セーブに阻まれ点差は開いていった。そして、香川クラブが24―16で優勝を飾った。

男子優勝・香川クラブ（香川県）

女　子

女子の部１回戦は、白梅三英芙会対京都教員クラブ戦と愛知ＷＩＮＳ対熊本クラブ戦が好ゲームとなった。白梅三英芙会対京都教員クラブ戦は、白梅三英芙会のリードで展開したが、京都教員クラブの終盤の２連取で同点に追いつき、延長戦へと突入した。延長後半、小島で２連取した京都教員クラブが１点差で逃げ切った。愛知ＷＩＮＳ対熊本クラブ戦は、ＧＫ日高の好セーブなどで、愛知ＷＩＮＳが４点リードで前半を折り返したが、後半徐々に追い上げ、28分に初めて逆転し、そのまま逃げ切った。最後まで集中力を切らさなかった熊本クラブの粘り勝ちであった。

ベスト４に勝ち上がったのは、シードチームのあじこめ、香川銀行チームハンドとノーシードから勝ち上がったＯＦＣ（岡山）と京都教員クラブとなった。第１回優勝チームの熊本クラブは、１回戦での激戦が響いたか京都教員クラブに敗れ、ベスト４進出はならなかった。準決勝の対戦は、ＯＦＣ対あじこめ、京都教員クラブ対香川銀行チームハンドの対戦となった。

［準決勝］

あ　じ　こ　め　23（12―７／11―６）13　Ｏ　Ｆ　Ｃ

あじこめはＧＫ荒川を中心とする堅い守りでペースをつかみ、阿部（華）を軸にロングシュート、速攻等で着々と点を重ね、12―７とあじこめリードで前半終了。後半に入ってもＯＦＣはあじこめの動きのいいディフェンスを崩すことができず、あじこめのペースのまま23―13であじこめが勝利した。

あじこめ、藤平のロングシュート

香川銀行チームハンド　26（14―７／12―５）12　京都教員クラブ

香川が７ｍスローで先制。その後も守ってからの素早い速攻、落ち着いたパス回しで着実に点をとる。一方、京都も点を決めるが些細なパスミスなどから相手にチャンスを奪われる。しかし中盤、辻の二度にわたるリバウンドやフォローで追い上げる。後半、香川の再三の攻撃を京都ＧＫが好セーブ。しかし確実なパス回しからの速攻を次々と香

川が決め、点差は縮まらない。その後も香川は山村がサイドから切りこんでのシュートが鮮やかに決まり、26—12で決勝へ勝ち進んだ。

［3位決定戦］

Ｏ　Ｆ　Ｃ　26（15—9／11—10）19　京都教員クラブ

序盤にＯＦＣがディフェンスから流れを掴み得点を重ねる。京都も反撃に出るが、ＯＦＣのディフェンスを崩しきれず、ＧＫの好守にも阻まれ、15—９で前半を終了した。後半に入っても、ＯＦＣは藤澤を中心に速攻、セットで確実に得点を重ねた。京都も必死の追い上げをみせるが、差を縮めることができず、19—26で敗れた。

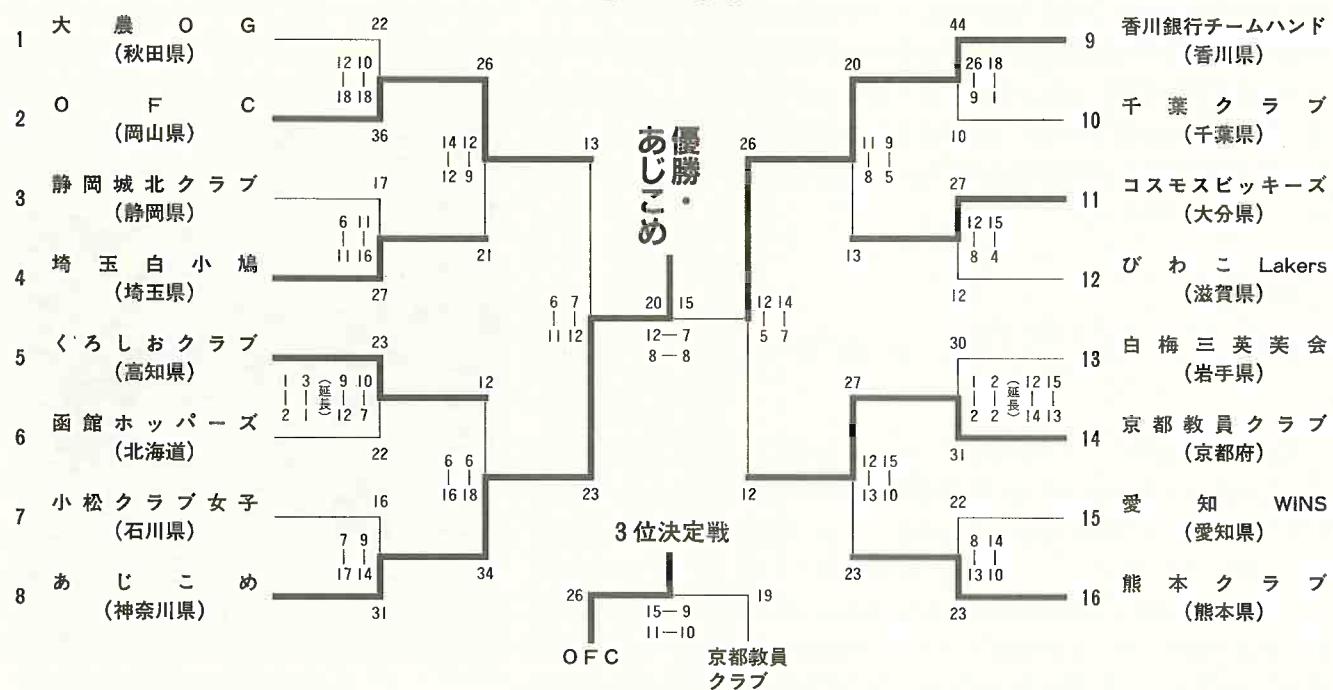
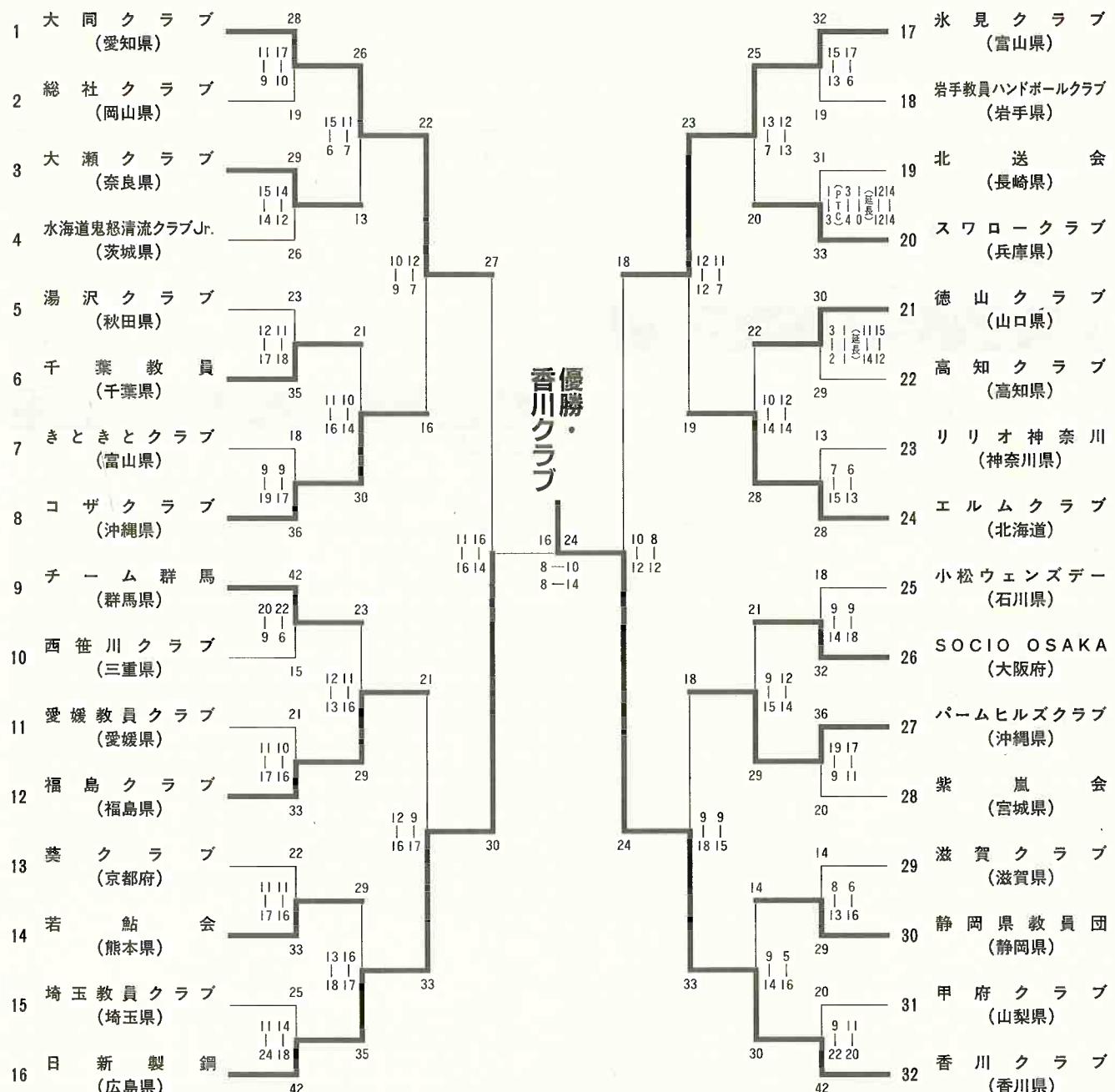
［決勝戦］

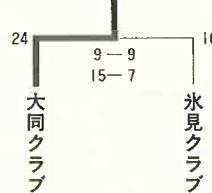
あじこめ　20（12—7／8—8）15　香川銀行チームハンド

立ちあがりから両チーム共速い試合運びとなった。しかし、香川銀行にラインクロスやシュートをはずすといったミスがではじめ、そのミスを確実についたあじこめが12—7と前半を５点リードで終えた。後半、香川銀行が怒濤の追い上げで１点差まで詰め寄るが、あじこめが持ち前のスピードで香川銀行のミスを誘い、20—15であじこめが優勝した。

女子優勝・あじこめ(神奈川県)

第6回ジャパンオープントーナメント大会試合結果

【女　子】

優勝・あじこめ(神奈川県)／準優勝・香川銀行チームハンド(香川県)／3位・OFC(岡山県)

第6回ジャパンオープントーナメント大会試合結果

【男　子】

優　勝　香川クラブ(香川県)　　3位　大同クラブ(愛知県)

準優勝　日　新　製　鋼(広島県)　　4位　氷見クラブ(富山県)

第30回全国中学校ハンドボール大会
男子は氷見北部（富山）、女子は仲西（沖縄）が優勝

平成13年度第30回全国中学校大会は、８月18日から21日の４日間、山口県徳山市総合スポーツセンターで、全国各地の予選を勝ち抜いた男女各24チームで熱戦が繰り広げられた。

男子では、氷見北部中が、準決勝で強豪沖縄の浦西中を後半12分過ぎからの5連続得点で突き放し決勝へと駒を進めた。決勝では、地元住吉中に24—14と快勝して、富山県勢としてはじめての優勝を飾った。

女子では、準決勝で住吉第一中（大阪）と激戦を演じた、昨年準優勝の仲西中（沖縄）が、決勝では東京の鹿骨中を大差で下し悲願を成し遂げた。

男　子

[準決勝]

住　　吉　21（11—11 / 10—８）19　豊中十三

男子準決勝。序盤堅さが見られた住吉のスキをつき豊中十三はエース夏山のミドル、永谷のポストシュートで４連続得点をあげ、一気に勝負をつけるかに思われたが、７分過ぎ住吉のタイムアウトでエース野村に本来の動きがもどり、ステップシュート、ジャンプシュートで５点を取る大活躍。その後両チーム共チームカラーを生かした攻撃が続いたが、16分、豊中十三の夏山が２分間退場の間に住吉・椋木のジャンプシュート、野村のステップシュートでじりじりと差を詰め21分に同点に追いつく。残り時間もわずかになった23分過ぎ、豊中十三エース夏山が失格となり11—11の同点で折り返す。後半、一ノ瀬のパス回しから得点をねらう豊中十三に対して多彩なフリースローや野村のロングシュートで得点を重ねる住吉の一進一退の攻防が続いた。９分過ぎ、豊中十三のノーマークシュートや速攻、７ｍスローを住吉ＧＫ村川が好セーブし、17分過ぎまで無得点におさえる。その後チームタイムアウトを取り、住吉・野村にマンツーマンをしかけ同点に追いつくが、フォーメーションで野村がロングシュートを突き刺し、勝負を決めた。

氷見北部　22（11—10 / 11—８）18　浦　　西

氷見北部のスローオフで始まった注目の男子準決勝は浦西・東長濱のゴールで幕を開けた。しかし、すかさず氷見北部主将・清水の７ｍスローで同点。注目の一戦にふさわしい立ち上がりとなった。序盤、浦西・棚原のロングシュート、氷見北部・小路の速攻など、まったく互角の展開。中盤以降も浦西・東長濱の個人技を中心とした攻撃、氷見北部・清水の好配球からのコンビプレーとともに持ち味を出し、11—10、氷見北部１点リードで前半を折り返した。後半立ち上がりリズムをつかんだのは、氷見北部。ＧＫ森本の好セーブから佐伯の速攻、松本のカットインなどで14—11とこの試合初めての３点リード。その後16分過ぎまで浦西・棚原の個人技、氷見北部・西塚のポストなど一進一退の攻防が続くも、氷見北部が清水のカットインシュートを皮切りに、一気に４連取。21—15とリードを広げた。浦西も中村のサイドシュートで得点するも結局22—18で氷見北部が逃げ切り、決勝に駒を進めた。

[決勝]

氷見北部　24（12—８ / 12—６）14　住　　吉

苦しい試合を勝ち進んだ地元住吉と高い個人技を生かしたチームプレーの氷見北部の決勝戦。前半立ち上がりから、両チームともに速いパス回しとフットワークのよいディフェンスで積極的な攻防を見せるが、氷見北部が佐伯のサイドシュート、松本のカットインからのシュートで得点を重ね、優勢の試合展開。住吉も野村のポストシュート、ステップシュート、椋木、松村などのカットインからのシュートで反撃するが、12—８で氷見北部が主導権を握り前半を終了する。後半は両チームの持ち味を生かした緊迫したゲームで進むが、徐々に得点差が開いた。氷見北部の速いパス回しからの多彩な攻撃による得点に対し、住吉も野村のロングシュートなどで反撃するが、一歩及ばず、24—14で終了。得点差は10点ついたが、地元の応援もあり、感動的な決勝戦となった。

女　子

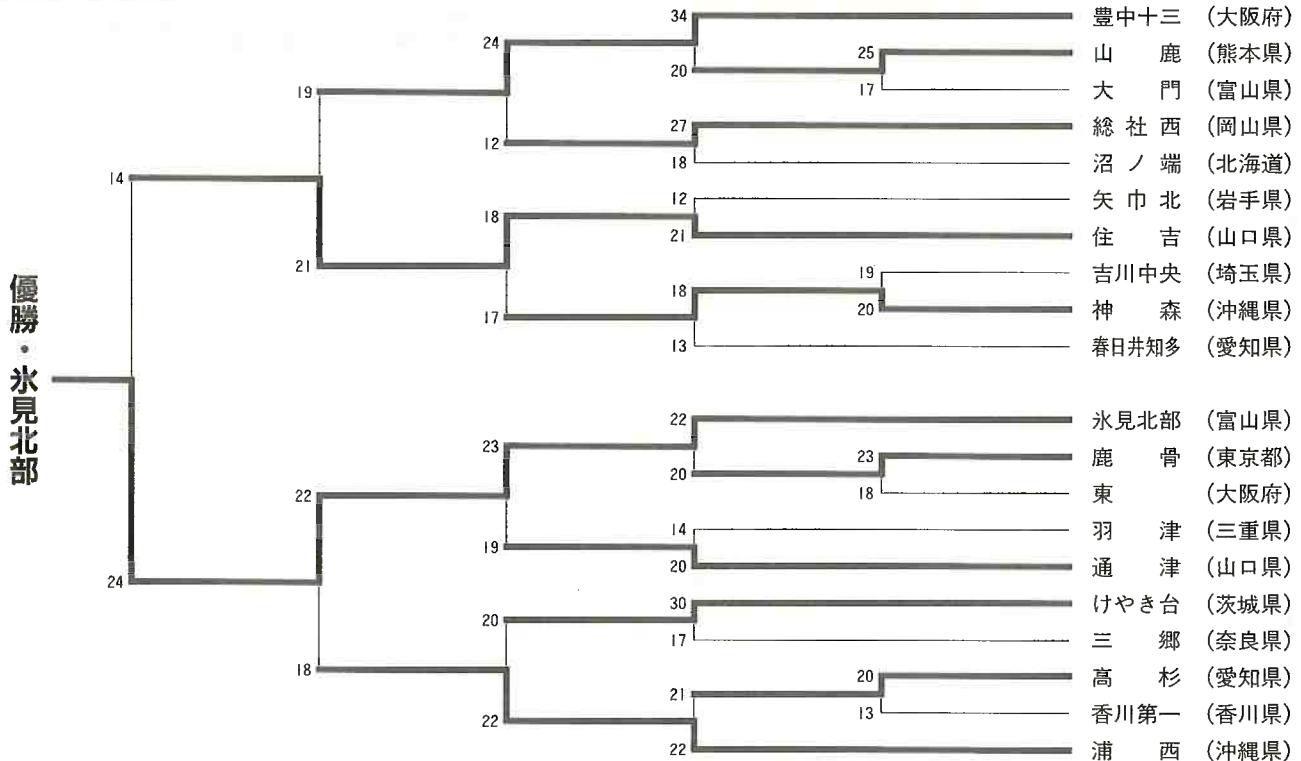
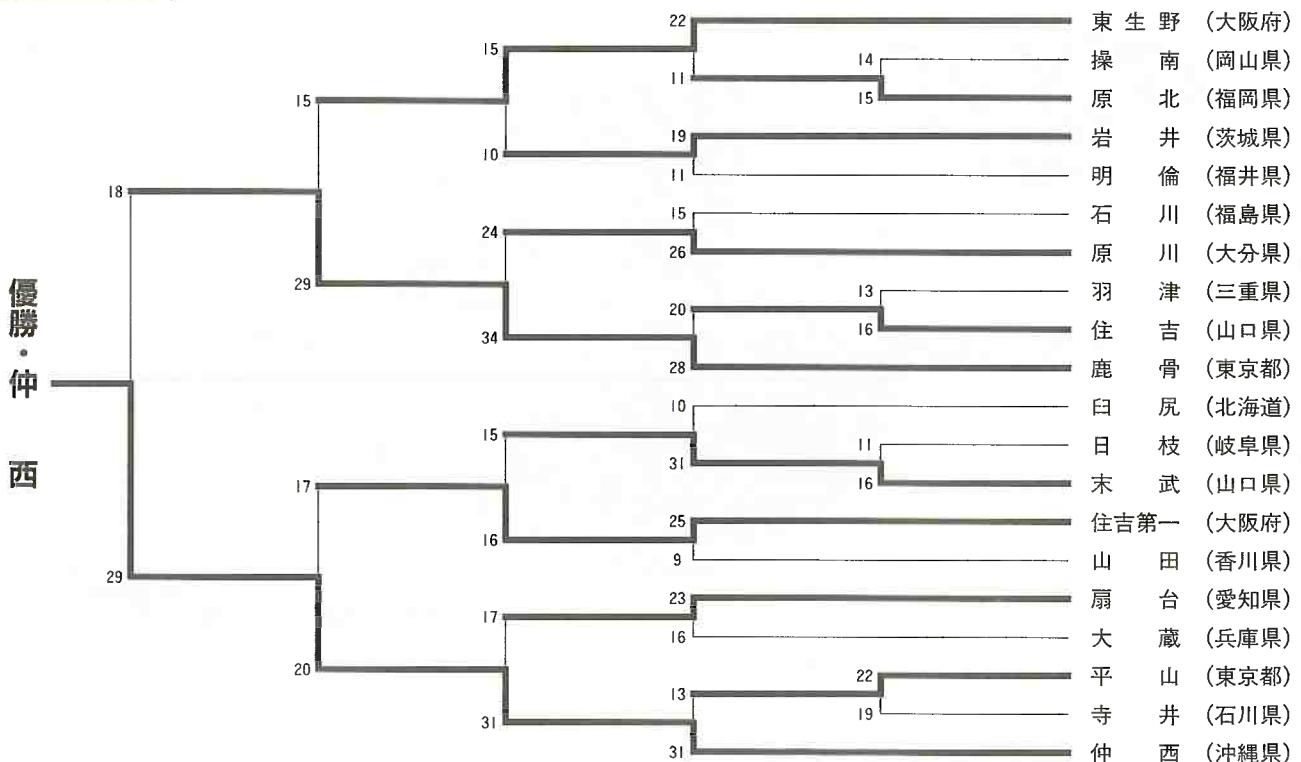
[準決勝]

仲　　西　20（９—９ / 11—８）17　住吉第一

仲西のスローオフで始まった女子準決勝戦。前半立ち上がりは両チームともシュートミスなどミスが続くが、住吉第一が堀田のポストシュートや上田のカットインプレーなどで３連続得点する。仲西は折田のサイドシュートが決まるが、住吉第一に退場者がいる間に、両チームとも２得点となかなか差が縮まらない。４点差となった前半16分、仲西がチームタイムアウトをとったのをきっかけに４連続得点し、18分、大城のロングシュートで同点。19分、折田のサイドシュートで逆転し波に乗るかにみえたが、住吉第一ＧＫ山越の再三の好セーブで追加点を許さず前半９—９で折り返した。後半立ち上がりも住吉第一が２点リードし、そのまま15分まで一進一退の攻防が続くが、17分住吉第一に退場者がいる間に仲西が同点とする。その後も仲西ＧＫ内間の好セーブからの速攻で22分には３点差となり、20—17で仲西が勝利を収めた。

鹿　　骨　29（16—８ / 13—７）15　東生野

序盤両チームとも足を使った積極的なディフェンスをするが、それを切り崩せない東生野に対し、鹿骨は高橋のカットインプレーなどでディフェンスを突破し得点していく。前半10分には、７—１と完全に鹿骨ペースとなる。11分過ぎに東生野がチームタイムアウト。これをきっかけに東生野のパスワークがよくなり、サイドシュートなどで得点していく。しかし鹿骨のスピード豊かな攻撃は続き、次第に東生野は荒い守りが目立つようになる。前半は16—８、鹿骨リードで折り返した。後半になっても鹿骨は攻撃の手をゆるめない。さらに東生野の攻撃が単調になったところで、パスカットから攻撃を繰り返しリードを広げていく。東生野ＧＫ田中の好守も続くが流れを変えるには至らず、15分には24—10と一方的な展開となった。残り10分を切ると東生野も康永１人に偏っていた攻撃を修正し、多彩な攻撃から得点しはじめるものの序盤についた得点差があまりにも大きく、29—15で鹿骨の完勝となった。

[決勝]

仲　　西　29（16—６ / 13—12）18　鹿　　骨

仲西・折田のカットインシュートで口火を切った女子決勝戦。決勝戦を意識してか、今までの鹿骨らしくないミスを連発し、7分過ぎ3－0で仲西がリードするスタートとなった。その後高橋のミドルシュート、下野のサイドシュートで応戦するが、仲西の高く、詰めの早い1－2－3ディフェンスを崩せず、仲西・折田のサイドシュート、大城のカットインシュートを許す形となり、前半を16－6の仲西リードで折り返す。後半は、鹿骨に本来の動きが戻り、全員積極的にゴールをねらい、エース高橋が4本の7ｍスローを確実に決め、速攻で平賀が得点をあげるものの、固いディフェンスと攻撃では儀間の鋭いフェイントと巧みなパスで鹿骨ディフェンスを確実に崩し、エース大城、ポスト仲里、サイド折田が得点をきっちりと決めてくる仲西を守りきることができず、29―18で沖縄・仲西中が優勝の栄冠に輝いた。決勝戦にふさわしいレベルの高い試合内容であった。

男子の部

優勝・氷見北部

豊中十三（大阪府）
山　鹿（熊本県）
大　門（富山県）
総社西（岡山県）
沼ノ端（北海道）
矢巾北（岩手県）
住　吉（山口県）
吉川中央（埼玉県）
神　森（沖縄県）
春日井知多（愛知県）
氷見北部（富山県）
鹿　骨（東京都）
東（大阪府）
羽　津（三重県）
通　津（山口県）
けやき台（茨城県）
三　郷（奈良県）
高　杉（愛知県）
香川第一（香川県）
浦　西（沖縄県）

34　20　25　17　27　18　12　21　19　20　18　13　24　12　18　17　19　21　14　24
22　20　23　18　14　20　30　17　20　13　21　22　23　19　20　22　22　18

女子の部

熱く燃えさせるためには

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

今年の夏は異常気象と言っていいのだろうか。とにかく連日の猛暑にはどうしようもないほどだった。熊本での全日本実業団選手権、インターハイもこうした暑さのなかで行われたが、プレーヤーも連戦で大変な労力を消費したことだろう。

熊本でのインターハイに駆けつけた際、ある屋外競技では、なんとテントのなかでさえ気温が38度も上がっていた。推測だが、おそらく直射日光のもとでは45度を超えていたのではないだろうか。まさに炎暑といった感じで、じっとしていても身体中から汗が吹き出してきたほどだ。

それはともかく、ハンドボール界は熱く燃えさかっているだろうか。この夏も多くの大会、イベントが全国各地で開かれた。アテネ五輪を目指す日本男子は、アジアナショナルサーキット、東アジア大会、さらにポーランドに遠征して強化につとめてきた。そしてヨーロッパの有力クラブを迎えてジャパン・ナショナルクラブカップに臨んだ。

結果は結果として、どれほど一般ファンの注目を集めただろうか。こうなるとちょっぴり寂しさが募ってくる。確かに新聞の片隅に成績は掲載されていた。大相撲の番付ではないが、それこそ虫眼鏡で見なければ見逃す程度である。

夏休みには全国中学校選手権など多くの大会が各地である。今年は中国・北京でユニバーシアードも開かれた。中国では初の世界的総合競技大会ということもあってか、かなりのスペースを割いて報道された。その影響かもしれないが、悲しいかなハンドボール報道は片隅に追いやられてしまったと言ってもいいだろう。

いくらホットな戦いを演じたとしても、その熱い戦いが一般の目にとまりにくければ、“主役”の選手もやり甲斐が少々減少するのではなかろうか。

以前からたびたび指摘しているが、やはり広報活動は今や重要という以前に、必要かくべからざる問題ではないだろうか。今回はどれほどリリース活動があったかは分からないが、おそらく結果の報告くらいではなかったのだろか。

ただ単に結果報告だけでは、これほど各種のスポーツが行われる現状では、よほど話題性、ニュース性がなければ取り上げられるのは難しい。

日頃からの積極的なアプローチが必要だし、人間的な接触も必要だろう。行政的なアタック、考え方では、問題は解決しない。会見の場を再三持つなど、懇談の場づくりをもっと頻繁に打ち出したい。まずは多くの人たちと顔見知りになることではないだろうか。そうすることによって、依頼もたやすくなるのは間違いない。

とにかく、ハンドボールをメジャースポーツにするためには、より広く、多くの人たちにまずは競技そのものを知ってもらうことである。会場にどれだけファンを集めるか。その一つの手段としてメディアの協力は欠かせない。告知方法の徹底を図る一今一度じっくり再検討したいものである。

いい空を。いい時間を。

もっとくつろげる空へ。もっと楽しめる空へ。
あなたの空を笑顔で満たしたいから。
日本で、そして世界中で。あなたに、いい空を、いい時間をお届けしたい。
私たちひとりひとり、心を込めて、お迎えいたします。

国内線のお問い合わせは、0120-029-222　国際線のお問い合わせは、0120-029-333　または、お近くの全日空代理店まで。
全日空ホームページ www.ana.co.jp

第7回ヒロシマ国際ハンドボール大会
日・中・韓の女子チームが熱戦を展開

2001年7月26日～29日：広島市東区スポーツセンター

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

【はじめに】

1994年に広島で開催された第12回アジア競技大会のメモリアル大会として翌年から開かれているこの大会も、今年で7回目を迎えました。

第5、6回大会はジャパンカップ、日本リーグ記念事業も兼ねていたため男女の大会でしたが、今年は女子の大会を行いました。

この大会の目的は、第一に国際平和文化都市を標榜する広島において国際試合を行うことにより、ハンドボールを通じて参加国との友好を深めることにあります。第二には、外国の強豪チームを呼び､試合を行うことで､全日本ナショナルチームの強化に役立て、悲願のオリンピック出場を果たして欲しいというのがハンドボール関係者の気持ちです。

12月にイタリアで行われる女子世界選手権大会に出場が決まっている全日本ナショナルチームにとって全日本実業団選手権大会を終えたばかりで、疲労はたまっていたとは思うが、仕上がり具合をチェックするには絶好の機会と思えました。今大会には、日本代表、光州市庁ハンドボールチーム(韓国)、安徽省女子手球隊(中国)、日本代表Ｕ―23の4チームが参加しました。

外国チームについては日本協会強化部、国際部と連携をとりながら進めました。事前に交渉しある程度内諾を得た後、正式招聘状を出すわけですが、今回も当初はヨーロッパからハンガリーの強豪クラブDunaferm Sports Clubが参加するとの返事をもらっていましたが、6月中旬、突然のキャンセル。中国、韓国両国は早くから参加ＯＫをもらい、さあこれからポスター、プログラム等の具体的準備をと思っていた時だけに、多少あわてましたが、国際大会にはつきもののドタキャンとあきらめました。日本代表Ｕ―23の関係者にとっては、出場かどうかで気をもませ、迷惑をおかけしました。

また、中国、韓国の参加についても､教科書問題､靖国神社参拝問題などで来日が難しい面もあったと後で聞きましたが、これまでの日、中、韓、また広島との関係を重視してくれ、予定通り来日してくれたことは感謝にたえません。

今回参加した4チームのプロフィールを簡単に記してみます。

【出場チームプロフィール】

〈日本代表〉

5月に行われた東アジア選手権で2位となり、宿敵韓国には24対28で敗れたものの、前半を16対14とリードするなど、韓国に追いつけ追い越せの上昇気流。今回もほぼベストメンバーに近い布陣で挑む。

広島メイプルレッズの青戸あかね主将の持ち前の激しい気性を表に出し、チームをグイグイ引っ張りデンマークのクラブチームに在籍する元大和銀行の田中美音子(ＣＰ)、山下美智子(ＧＫ)、左腕の山下麗子(オムロン)、サイドの倉知光子(日立栃木)ら経験豊富な陣容に加え、東アジア大会で最多得点をあげた山田永子(オムロン)をはじめ、19才ながら全日本入りした186㎝の谷口尚代(筑波大)らの活躍に期待。

日本代表

〈日本代表Ｕ―23〉

来年に世界学生選手権を控える学生主体のチームで、次代の全日本入りを目指す。若さあふれるプレーを前面に出し、積極的な守りから素早い攻撃への移行を主眼に台風の目となることに期待。

日本代表Ｕ―23

〈光州市庁ハンドボールチーム〉

世界のトップレベルを誇る韓国ナショナルチームの中核を形成する韓国きってのクラブチームで、今回の来日メンバーの5人が前・現代表メンバー、4人の前・現在ジュニ

ア代表が含まれる。韓国チーム独特のスピード豊かな攻守の切り替え、ステップワークは見ものである。このチームのコーチは、中村荷役のエースとして活躍し、日本リーグの最多得点記録を保持している呉龍基(オ・ヨンキ)氏である。

韓国・光州市庁ハンドボールチーム

〈安徽省女子手球隊〉

安徽省合肥市にあるクラブチーム。1991年に広島で行われたアジア選手権以来広島との交流を続けている中国手球協会とのつながりで今回も最も早く参加申し込みのあったチーム。メンバー構成は18才から33才までと幅広く、最高身長183cm、平均176.5cmと大型チーム。中国の特徴である高さとパワーを生かしたヨーロッパスタイルのプレーを展開する。北京オリンピックも決定したし、中国対策も日本にとって重要となってこよう。

中国・安徽省女子手球隊

以上の４チームは７月25日にはヒロシマに集結、大会を迎えました。

全チームがこの日に揃ったので、その日の夕食は瀬戸内海汽船の好意により瀬戸内海クルージングと銘打って、夕闇迫る瀬戸内海を宇品港から宮島までの往復を客船「銀河」で行い、国際交流を行いました。

大会初日の７月26日にはチームは練習で汗を流しましたが、選手団代表は山下泉広島県ハンドボール協会会長の引率のもと公式行事を行いました。

８月６日の原爆記念日を前にした広島平和公園に献花を行った後、秋葉忠利広島市長、藤田雄山広島県知事を表敬訪問し、大会開催の挨拶を行いました。午後４時から各チームの監督が参加し、今大会への抱負等を広島運動記者クラブハンドボール分科会のメンバーを中心とした報道陣の前で披露しました。引き続き行われた代表者会議では、今大会のルール、出場メンバーの人数、各試合ごとのユニフォームの確認などを和気藹々のうちに決定しました。

７月26日からいよいよゲームの開始です。７月26日と27日の両日は山口県の男女高校チームを招き、広島県チームが対戦し、交流試合を行いました。

さて、ゲームは韓国－中国戦を皮切りに始まりました。試合結果は以下の通りです。

【試合結果】

光州市庁 38 (19―8 / 19―16) 24 安徽省女子

［戦評］立ち上がり、両チームとも初戦の硬さが見られ、10分過ぎまで一進一退の攻防が続く。中国はＧＫ１番の朱、ＣＰベテランの８番岳の頑張りにより主導権を握ろうと試みるが、韓国の６：０ディフェンスが徐々に中国のロング陣を押え込み、韓国15番禹、ポスト14番鄭に得点を重ねられ、前半20分過ぎには10点差がつき、試合の大勢が決まってしまった。後半に入っても、韓国は攻撃の手を緩めず、控えメンバーを出場させる余裕を見せ、大会の好スタートを切った。

日本代表 24 (12―9 / 12―7) 16 日本代表Ｕ―23

［戦評］試合開始から熱の入った攻防が続いた。日本代表は、ディフェンスが手堅く、なかなかＵ―23に得点シーンを与えない。対するＵ―23も代表とは対照的に、足を使った攻撃的なディフェンスで代表の攻撃の芽を摘む。途中、代表は青戸を投入したあたりからリズムをつくり出し、前半３点差で折り返す。後半に入っても両チームともＧＫを含めたディフェンスが機能し、内容のあるゲーム展開となった。悔やまれるのは、Ｕ―23の攻撃が後半途中に単調になったところ。さすがに代表はＵ―23の単調な攻撃をことごとく速攻に結び付け点差を広げ、貫禄を見せつけた。Ｕ―23もスピーディな展開を見せ、明日からのゲームを期待するのに充分な内容であった。

光州市庁 22 (10―5 / 12―9) 14 日本代表Ｕ―23

［戦評］前半立ち上がりから両者ミスが多く、Ｕ―23ＧＫ安達の活躍により20分過ぎまで５対２韓国リードというロースコアーの展開。残り10分、韓国の堅い守りから速攻の得点でペースをつかみ、10対５で折り返す。後半、出足から韓国のポスト14番の鄭、サイド15番の禹の得点で一気に９点差までリードを広げたが、Ｕ―23の10番上町のロングシュートや４番の富田の速攻で反撃。しかし、点差を縮められず、22対14で韓国が勝利した。両者、攻撃のミスが目立つ試合であった。

日本代表 30 (11―13 / 19―11) 24 安徽省女子

［戦評］立ち上がり、谷口の一発で先制、中国も５番Yangのサイド速攻で応戦。両チームともディフェンスが堅く、15分過ぎまで一進一退が続く。前半残り10分あたりから日本のイージーミスに乗じて中国が速攻、サイドで加点、日本もゲームメーカー田中のカットインなどで応戦するが、中国の粘り強いセットオフェンスを守り切れず。パワープレーを確実に得点した中国が２点差をつけて前半を折り返した。後半立ち上がり、地元メイプルレッズ青戸の速攻、ポストの３連取で逆転、その後もハードなディフェンスから金城、屋嘉で得点を重ね、20分過ぎには４点差をつける。対する中国も５番Yangの速攻、ベテラン８番Yueの巧技で応戦。残り10分、疲れが見え始めた中国に対し、倉知のカットインなどでようやく主導権を握り、最終的には６点差をつけてゲームセット。得点チャンスでのイージーミスに課題を残したものの、明日の最終戦を好ムードで迎える事ができる内容であった。

日本代表　青戸あかね選手（対中国戦）

安徽省女子　24（14―10／10―７）17　日本代表U―23

［戦評］前半開始から激しい攻防が展開され、U―23の14番安心院の３連続ゴールでペースを掴んだかに思えたが、15分過ぎから次第に中国の高さとパワー攻撃を守り切れず、また、GK１番朱の好セーブにも阻まれ、14対10の中国リードで前半を終えた。後半、U―23のアタックディフェンスが良く機能し、中国の攻撃を守ったが、攻撃でのミスでなかなかリズムがつかめず、終始、中国にリードされタイムアップとなった。中国の６番陳のベテランらしい味のあるプレーとGK朱のファインセーブが光った試合であった。U―23も小柄ではあるが14番安心院のプレーは目を見張るものがあった。

光州市庁　31（15―13／16―13）26　日本代表

［戦評］両チームとも激しいディフェンスでスタート。韓国は４番Jangのゲームメークからサイド15番Wooの巧打を引き出し、対する日本は韓国のイージーミスに乗じ速攻で連取。15分過ぎには速攻から青戸のポストでこの試合初めてリードする。その後、日本は再び速攻から青戸のポスト、対する韓国はポスト14番Chungにボールを集め、15番WooのPTで応戦。前半残り５分、日本のオフェンスが単調になったところ韓国が速攻に結び付け、韓国の２点リードで前半を折り返す。後半立ち上がり、個人技に優る韓国は10番Kim、９番Leeのカットインで加点、10分過ぎには４点差をつける。対する日本はディフェンス・システムを変更、韓国が攻撃のリズムを崩したところ速攻に結び付け、15分過ぎには同点に追いつく。その後徐々に日本のディフェンスに韓国のオフェンスが対応としだし、20分過ぎには逆に４点リードをつけられてしまう。日本も金城のミドルシュートで応戦するものの要所で韓国の個人技を守る事ができず、善戦及ばず惜しいゲームを落とした。

（順位）

１位　光州市庁H・T（韓国）
２位　日本代表
３位　安徽省女子手球隊（中国）
４位　日本代表U―23

（表彰選手）

最優秀選手　呉　令蘭（韓国）GK
優秀選手　朱　莉珍（中国）GK
　　　　　青戸あかね（日本代表）CP
　　　　　安心院祐子（日本代表U―23）CP

［高校招待試合］

（男子）

岩国工業高校（山口）　27（12―６／15―６）12　広島県選抜

（女子）

華陵高校（山口）　27（16―４／11―５）９　賀茂高校（広島）

最優秀選手　呉令蘭（韓国）
浜脇純一広島市ハンドボール協会会長より贈呈

閉会の挨拶
山下泉㈶日本ハンドボール協会副会長

【おわりに】

すべての試合終了後、会場を広島市内のホテルに移し、藤田雄山広島県知事、森元弘志広島市助役、田村鋭治広島市体育協会会長をはじめとする大会開催にあたりお世話になった方々にもご出席いただき、表彰式、サヨナラパーティを行いました。会場には広島名物オタフク「お好み焼きコーナー」も出店し、場を盛り上げました。各国選手団、日本協会、広島県協会、審判団の国際交流も盛んに行われ、大会の幕を閉じました。

終わりに、今大会を開催するに当たり、今年も主催していただいた中国新聞社をはじめとする報道各社及びご協賛いただいた㈱モルテンほかの各社に厚くお礼申し上げます。

第28回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

米子高専が初の全国制覇

（社）全国高等専門学校体育協会ハンドボール競技専門部・委員長　**古屋　正俊**

第28回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会が、８月４日、５日に山口県徳山市で開催された。会場となった総合スポーツセンターは、ハンドコートが３面もとれる立派な施設。エアコン完備の快適な館内は、今夏の記録的な猛暑を忘れるほどで、参加選手や役員からはプレーに専念できると大変好評であった。

参加校は全国各地の予選を勝ち抜いた12校。大会初日は３校ごとの予選リーグを実施し、２日目は各予選リーグの１位校による決勝トーナメント方式で大会が行われた。決勝トーナメント進出チームは全て中国、四国、九州地区代表で占められ、高専ハンドボールの西高東低の勢力図が読み取れる大会となった。

予選リーグ第１ブロックは、昨年度の準優勝校で「今年こそ優勝を」と意気込む八代高専が、速攻とコンビプレーで徳山、一関を寄せ付けず圧勝。第２ブロックは、四国地区初の地区大会を突破し、少人数ながらも多彩な攻撃力を誇る高知高専が、明石、東京の追い上げを振りきり決勝トーナメントへ。

第３ブロックは、中国地区予選で優勝し攻守に安定した力を発揮する津山高専が石川、北九州を突き放し決勝トーナメントに。第４ブロックは、中国地区予選を２位で通過した米子高専が、昨年度の優勝校で連覇を目指す豊田の攻撃を封じ、４年ぶりの決勝トーナメント進出。

準決勝Ａコートは米子高専と津山高専の中国地区同士の対戦。地区予選決勝で延長戦までもつれ込んだ両チームの力は全くの互角。スタートから激しい攻防が続き、両チームとも一歩も譲らず延長戦に突入。米子高専は延長後半にエース倉本のミドル等で振り切り決勝進出を果たす。惜しくも24年ぶりの決勝進出を逃した津山高専は、昨年同様に今夏も最後まで大接戦を演じ観客を沸かせたが、勝利の女神は微笑まなかった。

準決勝Ｂコートは互いにコンビプレーが持ち味の八代高専と高知高専の対戦。昨年の予選リーグでは八代が接戦で高知を下している。雪辱を期す高知は得意のフォーメーションで加点するが、前半中盤から八代の速攻、セット攻撃で連取を許す。高知は後半開始早々に３連取するが反撃もここまで。八代はキーパーシュート等で波に乗り、余裕を持って決勝戦に進出。

米子高専・倉本のロングシュート

決勝は延長戦を制した米子高専と13年ぶりの優勝を目指す八代高専の対戦。米子は坂田のカットインで先制。八代も得意のフォーメーションで応戦。両チームとも持ち味を生かし、立ち上がりからスピードのある好ゲームとなる。後半、米子は門脇の二度の連取でリズムに乗る。米子は堅いディフェンスとキーパーのファインセーブで八代の猛追を逃げ切り、念願の初優勝を果たす。

本大会の優秀選手は倉本聖也、坂本篤、坂田邦明（以上、米子高専）、木村賢、若松和哉（以上、八代高専）、岡靖浩（津山高専）、谷田晋司（高知高専）の７名が選出された。

本大会は山口県協会、並びに徳山高専スタッフの全面的な支援を得て開催されました。ご尽力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

■予選リーグ

◆ 第１ブロック

八代高専　22—14　徳山高専
八代高専　26—18　一関高専
一関高専　20—13　徳山高専
［順位］①八代高専　②一関高専　③徳山高専

◆ 第２ブロック

高知高専　22—18　明石高専
高知高専　26—22　東京高専
明石高専　24—13　東京高専
［順位］①高知高専　②明石高専　③東京高専

◆ 第３ブロック

津山高専　19—12　北九州高専
津山高専　18—12　石川高専
石川高専　19—15　北九州高専
［順位］①津山高専　②石川高専　③北九州高専

◆ 第４ブロック

米子高専　28—21　大阪府立高専
米子高専　17—13　豊田高専
豊田高専　20—15　大阪府立高専
［順位］①米子高専　②豊田高専　③大阪府立高専

■準決勝

米子高専　18（6—6、9—9、（延長）0—0、3—1）16　津山高専

八代高専　25（11—7、14—12）19　高知高専

■決　勝

米子高専　21（10—9、11—10）19　八代高専

両校共に立ち上がりからスピードあるゲームを展開し、八代高専は木村を中心とし、米子高専は近藤、坂田を中心とし得点を重ねていく。前半残り３秒で米子高専が７ｍＴを決め、米子高専の１点リードで前半を折り返す。

後半も同じような試合展開となったが、八代高専のオーバーステップなどからの逆速攻で米子高専は点を重ねた。八代高専も堤内のサイドシュートや木村のロングシュートで巻き返そうとしたものの、21—19で米子高専が逃げ切った。

第14回全国小学生大会

男子は玉名町小学校（熊本）、女子は神森小学校（沖縄）が優勝

第14回全国小学生大会は、8月3日から5日まで京都府の田辺中央体育館をメイン会場に、同志社大学体育館、田辺高校体育館で、全国から男子24チーム、女子20チームを集めて行われた。

大会は、男女とも予選リーグまたは予選トーナメントの後、上位8チームによる決勝トーナメントが行われた。

男子は、熊本県の玉名町小学校が、宮崎県の三松小ハンドボールスポーツ少年団を破って優勝をした。

女子は、沖縄県の神森小学校ハンドボールクラブが、京都府の桃園小学校ハンドボールチームを破って優勝した。

【男子】

■予選Aブロック

湯沢市 15－10 旭が丘小
兼原小 24－2 香川町
旭が丘小 27－5 香川町
兼原小 17－10 湯沢市

（順位）①兼原小学校ハンドボールクラブ（沖縄）②湯沢市ハンドボールスポーツ少年団（秋田）③旭が丘小学校ハンドボールクラブ（三重）④香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブくん（香川）

■予選Bブロック

真弓クラブ 16－7 豊田市
真弓クラブ 15－13 安居スポ少
安居スポ 17－7 豊田市

（順位）①真弓クラブ（奈良）②安居ブルーサンダーハンドボールスポーツ少年団（福井）③豊田市ハンドボールスクールミニ（愛知）

■予選Cブロック

桃園小 17－12 甲田
桃園小 21－2 鶴巻
鶴巻 12－11 甲田

（順位）①桃園小学校ハンドボールチーム（開催地）②S.H.C.鶴巻（東京）③甲田ハンドボール部（広島）

■予選Dブロック

玉名町 13－7 上庄
玉名町 14－8 総社
上庄 21－5 総社

（順位）①玉名町小学校（熊本）②上庄スポーツ少年団（富山）③総社クラブジュニア（岡山）

■予選Eブロック

明野北 17－10 守谷
愛媛 10－8 貝塚
守谷 24－5 貝塚
明野北 17－9 愛媛

（順位）①明野北ハンドボール少年団（大分）②愛媛ジュニアーズ（愛媛）③スポーツ少年団守谷クラブ（茨城）④貝塚バーディーズ（大阪）

■予選Fブロック

富岡 16－5 神戸
富岡 15－10 くちのつ
くちのつ 16－7 神戸

（順位）①富岡イーグルス（群馬）②くちのつキッズクラブ（長崎）③神戸ラスカルズ（兵庫）

■予選Gブロック

高盛 17－2 和歌山市
高盛 8－4 塩山
塩山 18－2 和歌山市

（順位）①高盛ハンドボールクラブ（北海道）②塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨）③和歌山市ハンドボール教室（和歌山）

■予選Hブロック

京田辺市 20－12 埴生小
三松小 8－5 LITTLE GUTS
埴生小 21－12 LITTLE GUTS
三松小 12－11 京田辺市

（順位）①三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎）②京田辺市選抜（京都）③埴生小学校ハンドボール班（長野）④LITTLE GUTS（山口）

■決勝トーナメント1回戦

兼原小 17－8 真弓

玉名町 19－9 桃園小
明野北 18－8 富岡
三松小 10－7 高盛

■準決勝
玉名町 20－6 兼原小
三松小 15－11 明野北

■3位決定戦
兼原小 18－17 明野北

■決勝
玉名町 20－10 三松小
★優勝　玉名町小学校（熊本）

【女子】

■予選aブロック
笹川 20－7 富岡
日岡 24－4 貝塚
日岡 28－6 富岡
笹川 16－7 貝塚
日岡 18－10 笹川
貝塚 16－14 富岡
(順位) ①日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分）②笹川ハンドボール少年団（三重）③貝塚バーディーズ（大阪）④富岡ラビッツ（群馬）

■予選bブロック
玉名町 9－6 福井
玉名町 19－5 神戸
福井 9－3 神戸
(順位) ①玉名町小学校（熊本）②福井ハンドボールスクール（福井）③神戸ラスカルズ（兵庫）

■予選cブロック
神森小 24－3 香川町
神森小 11－3 LITTLE GUTS
LITTLE GUTS 19－1 香川町
(順位) ①神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄）②LITTLE GUTS（山口）③香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブちゃん（香川）

■予選dブロック
真弓 12－5 東海
真弓 9－5 日知屋東
日知屋東 13－1 東海
(順位) ①真弓クラブ（奈良）②日知屋東小ハンドボール部（宮崎）③東海ハンドボールスクール（愛知）

■予選eブロック
桃園小 33－4 甲田
桃園小 24－7 筑波学園
筑波学園 19－1 甲田
(順位) ①桃園小学校ハンドボールチーム（京都）②筑波学園ハンドボールクラブ（茨城）③甲田ハンドボール部（広島）

■予選fブロック
京田辺市 21－6 総社
仏生寺 25－3 埴生小
京田辺市 12－5 埴生小
仏生寺 31－3 総社
京田辺市 11－9 仏生寺
埴生小 20－3 総社
(順位) ①京田辺市選抜（京都）②仏生寺スポーツ少年団（富山）③埴生小学校ハンドボール班（長野）④総社クラブジュニア（岡山）

■決勝トーナメント1回戦
日岡 16－4 仏生寺
神森小 12－7 玉名町
桃園小 14－1 真弓
京田辺市 10－8 笹川

■準決勝
神森小 14－13 日岡
桃園小 13－1 京田辺市

■3位決定戦
日岡 19－9 京田辺市

■決勝
神森小 8－7 桃園小
★優勝　神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄）

チェリーカップ第9回東日本小学生大会兼東北ブロック小学生大会

男子は湯沢市スポーツ少年団、女子は宮田スポーツ少年団が優勝

9回目を数えるチェリーカップ東日本小学生大会兼東北ブロック小学生大会は、8月18・19日の両日、山形県東根市民体育館で東北地区を中心に男子12チーム、女子7チームを集めて、山形県ハンドボール協会の主催で開催された。また、東根市が共催し、開会式に、山形県協会会長を始めとして、東根市助役、市議会議長など行政からの列席もあり、東根市上げてのバックアップ体制に大会への意気込みが伺えた。優勝杯のチェリーカップも東根市からの寄贈である。

この大会は、「べにばな国体」の記念大会として開催され、東日本の少年少女にハンドボールを通して心身の育成と交流を目的としている。参加資格は、原則として小学4年生から6年生となっているが、子供の発達度に合わせ指導者の判断でゲーム参加させてよいことが代表者会議で話し合われた。多くの子供達に発達度に応じた経験を与える意味で、好ましい配慮と歓迎されていた。

男子は、秋田の湯沢市ハンドボールスポーツ少年団が、富山の宮田ハンドボールスポーツ少年団を破り初優勝をした。

女子は、富山勢同士の決勝となり、3年連続優勝を続けていた上庄スポーツ少年団を宮田ハンドボールスポーツ少年団が破り、初優勝を遂げた。

【男子】

■予選Aブロック

東根スポ少　25－3　本宮ジュニア
東根スポ少　27－10　花巻ジュニア
花巻ジュニア　17－12　本宮ジュニア

（順位）①東根ハンドボールスポーツ少年団（山形）②花巻クラブジュニア（岩手）③本宮ジュニア（福島）

■予選Bブロック

宮田スポ少　13－3　神町スポ少
神町スポ少　11－8　本宮スポ少
宮田スポ少　7－7　本宮スポ少

（順位）①宮田スポーツ少年団（富山）②神町ハンドボールスポーツ少年団（山形）③本宮ハンドボールスポーツ少年団（福島）

■予選Cブロック

湯沢スポ少　28－1　リトル
湯沢スポ少　26－0　尾花沢スポ少
リトル　17－2　尾花沢スポ少

（順位）①湯沢市ハンドボールスポーツ少年団（秋田）②リトル・ハンド（岩手）③尾花沢ハンドボールスポーツ少年団（山形）

■予選Dブロック

窪スポ少　13－12　新治
新治　22－2　荻小スポ少
窪スポ小　39－1　荻小スポ少

（順位）①窪スポーツ少年団（富山）②新治クラブ（茨城）③荻小スポーツ少年団（山形）

■決勝トーナメント1回戦

宮田スポ少　17－10　東根スポ少
湯沢スポ少　19－13　窪スポ少年

■3位決定戦

窪スポ少　23－8　東根スポ少

■決勝

湯沢スポ少　16－11　宮田スポ少

★優勝　湯沢市ハンドボールスポーツ少年団（秋田）

【女子】

■1回戦

東根スポ少　15－3　玉野小学校
玉野スポ少　22－8　リトル
宮田スポ少　24－3　尾花沢スポ少

■準決勝

上庄スポ少　24－4　東根スポ少
宮田スポ少　18－5　玉野スポ少

■3位決定戦

リトル　14－8　尾花沢スポ少
玉野スポ少　27－7　玉野小学校
東根スポ少　17－3　リトル
玉野スポ少　17－5　東根スポ少

■決勝

宮田スポ少　18－14　上庄スポ少

（最終順位）①宮田スポーツ少年団（富山）②上庄スポーツ少年団（富山）③玉野スキースポーツ少年団（山形）④東根ハンドボールスポーツ少年団⑤玉野小学校（山形）・リトルハンド（岩手）⑦尾花沢ハンドボールスポーツ少年団（山形）

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

人物登場。今回はこの方にご登場いただきます。

審（あきら）（旧姓 白鳥）愛玲（あいれい） さん

昭和11年3月4日生

日本体育大学女子短期大学でＧＫとして活躍。卒業後、京都女子中・高等学校勤務、一年後ハンドボール部顧問となり、40年間務める。その間にインターハイ12回(昭和36年、12回大会３位)、国体１回出場。また成年女子監督として国体３回出場。京都教員チーム監督として全日本教職員大会９回出場うち７回に優勝。平成８年３月にご退職され、その後同校の非常勤講師を平成10年まで。現在全日本教職員ハンドボール連盟理事。現在も京都に住まわれ、趣味は園芸・娘さん（日体大ＯＧ）との登山。今年もすでに白馬岳・槍ケ岳に登ったとのことです。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

昭和29年、熊本の高校から日体大女子短大へ進学。高校時代はソフトボール部でしたが大学では違う球技をしてみたいと思ってグラウンドを見まわしてみると、高校時代の校長先生の息子さんであった光島磯雄さん（元、国際審判員）がハンドボールのＧＫをしていらっしゃったのに驚きました。初めてみる球技でしたが、「横っ飛びでボールを止めるＧＫへのあこがれ」で、迷わず入部しました。入部してみると、男子チームは荒川清美先生（元、日本協会理事長）の指導により、数々の大会優勝という強いチームでした。部には熊本県人が多く、先輩には光島さん、狩野幸介さん（元、国際審判員）、後輩には竹野奉昭さん（元、全日本男子監督）たちが活躍していました。入部して３週間後には先輩の狩野幸介さんから、ＧＫとしてレギュラーになるための早朝訓練がはじまり、１年間続けられました。男子コートでは同期の北川勇喜さん（元、日体大監督）が一人黙々とＧＫの練習をしていらっしゃいました。

当時のハンドボールはどのようなものでしたか。

当時は11人制でコートが広く、ゴールポストも高く、シュートもなかなか受け止めることが出来ず、悔し涙を流しながら夢中で練習しました。日体大の女子には経験者が少なく、試合もほとんど出来ませんでした。ただ国体に出場できたことが喜びでした。この年の国体は単独チームでの出場ではなく、東京都の４大学（東京教育大［現筑波大］、日本女子体育大、東京女子体育大、日体大）の中から選手を選抜し、東京クラブとして第９回国体（北海道）に出場することになったのです。二年になると新入生に名門校より続々入部、単独チームとして第10回の神奈川国体で３位。そして卒業前に東海林圭子先輩、同期柳沢徳枝さん、後輩達とで全日体大を結成し、平塚市で行われた第２回全国室内選手権（７人制）で優勝することができました。

ハンドボールを通じての思い出を教えて下さい。

高校生の指導者として40年間、いろんな思い出はありましたが、やはり昭和63年の京都国体に向けてのチーム作りと、３位ではありましたが成功したという喜びはよい思い出として残っております。京都国体の３年前、「成年女子チームを育ててくれないか？」と当時京都府ハンドボール協会理事長小西博喜さんに相談されました。その頃の成年女子チームは愛好者の集まりで、練習は週１回、国体にも近畿代表としては出場していましたが上位入賞は難しく、まず選手集めを小西博喜・藤本昇（現、京都府協会理事長）両氏にお願いし、監督西沢金作さん（京都府協会理事）マネージャーは私、大体大・日体大で活躍した選手を集め(元実業団二人を含む）スタートしました。しかし、練習会場不足や教員としての仕事もあり、全員練習時間に揃わず大変でした。長期の休みには、合宿や遠征（東京・埼玉・山梨・愛知・三重・熊本の実業団と対戦）を繰り返し、実力をつけ、国体３位になることが出来ました。京都国体後、何人かは結婚などで抜けましたが、ほとんど同じメンバーで、楽しいハンドボールに切り換え、私も監督兼マネージャーとして、全日本教職員選手権では第30回から36回大会まで７連勝を果たしました。また、年に一度の京都府選手権に出場し、毎年上位の成績（１位か２位）をおさめ、試合後にはいつもあの京都国体の苦労話や楽しかった思い出話に花を咲かせております。

いまの日本ハンドボール界に望むことは何ですか。

最近高体連関係の大会に行くたび、どの地方でもチームが減ったと聞き、淋しさを感じています。幸い私は40年間一度もチームを途絶えさせること無く、それだけを誇りに退職しました。オリンピック出場を果たす為には底辺（小・中・高校生）を広げ、一人でも多くハンドボール部員を増やし、育てることが大切だと思います。日本協会の関係者の皆様の努力は充分理解しておりますので今後とも宜しくお願い致します。

審さんありがとうございました。次号をお楽しみに。

「スポーツ振興基本計画」の中でのハンドボールのナショナルトレーニングシステムの位置付けについて

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲　生　晴　明

2000年9月13日に文部省（現文部科学省）は、21世紀のスポーツのあり方を「スポーツ振興基本計画」として発表した。その取り組み方には、次の3点について具現化していくための方向性が記されている。

1、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策

2、我が国の国際競技力の総合的な向上方策

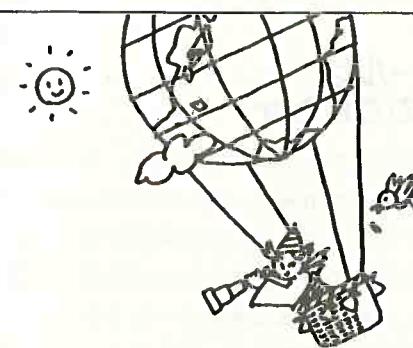
3、生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進するための方策

2番目の**「我が国の国際競技力の総合的な向上のための必要不可欠である施策」**として**「一貫指導システムの構築」**があげられている。その到達目標として、**「2005年を目途に、競技団体がトップレベルの競技者を育成するための指導理念や指導内容を示した競技者育成プログラムを作成するとともに、このプログラムに基づき競技者に対し指導を行う体制を整備する」**としている。また、今後10年間の具体的施策展開として、現在文部科学省が財団法人日本オリンピック委員会に委嘱して実施している「一貫指導システム構築のためのモデル事業」(現競技者育成プログラム策定のためのモデル事業に名称変更）の成果を踏まえて、各競技団体が競技者育成プログラムを作成するとしている。

ここまででご理解いただけるように、国際競技力向上のためには、「一貫指導システムの構築」「競技者育成プログラムの作成」が必要不可欠かつ確実に確立しなければならない施策として位置付けられている。

ハンドボールにおけるナショナルトレーニングシステム（NTS）は、この施策に位置付けされている。従って、NTSをフルに活用して競技者育成プログラムを充実していき、全国から優秀なタレントを逸早く発掘・同時に指導者の養成・育成を推進しながら、ハンドボール競技の一貫した指導理念を持って競技力の向上を図って行く。

いずれにしても、スポーツ振興基本計画に基づきスタートした「JOC　GOLD　PLAN」の中で12競技16種目の競技団体が「競技者育成プログラム策定のためのモデル事業」として、連携推進している。その中でも、ハンドボールは、サッカーに続き、一貫指導システム構築を実現してきた成果を文部科学省・JOCから高く評価されている。

将来ハンドボールの日本代表チームが、オリンピックで表彰台に上がることを最大の目標として、地道な努力をして行かなければならない。今後とも、NTSの推進に対して、各連盟・ブロック・県・市町村はじめとする日本ハンドボール界全体の方々の総力を結集していただきたく、ご理解・ご支援・ご協力のほどよろしくお願いしたい。

スポーツ振興基本計画における我が国の国際競技力の総合的な向上方策

政策目標

(1) オリンピック競技大会などの国際競技大会での我が国のトップレベルの競技者の活躍は、国民に夢や感動を与え、明るく活力のある社会の形成に寄与することから、このような大会で活躍できる競技者の育成、強化を積極的に推進する。
(2) 具体的には、1996年（平成８年）のオリンピック競技大会での我が国のメダル獲得率が1.7％まで低下していることを踏まえ、我が国のトップレベルの競技者の育成・強化のための諸施策を総合的・計画的に推進し、早期にメダル獲得率が倍増し、3.5％となることを目指す。

必要不可欠な施策

(1) ジュニア期からトップレベルに至るまで一貫した理念に基づき最適な指導を行う一貫指導システムの構築
(2) ナショナルレベルのトレーニング拠点の早期の整備や地域の強化拠点の整備
(3) 指導者の育成・確保（専任化の促進、ナショナルコーチアカデミー制度の創設）等を総合的に推進

このための側面的施策

(1) スポーツ医・科学の活用により科学的なトレーニング方法の開発を推進
(2) アンチ・ドーピング活動の推進
(3) 国際競技大会等の積極的な開催等

JOC GOLD PLAN

競技者育成プログラム策定のためのモデル事業

（平成13年～）

●**プロジェクト中央班**
・一貫性体力班
・コーディネーショントレーニング班
・ＩＴ活用検討班

●**モデル事業実施団体（12競技16種目）**
陸上、水泳（競泳）、サッカー、柔道、バレーボール、
スキー（アルペン）、スキー（ジャンプ）、
スケート（スピード）、スケート（ショート）
ハンドボール、レスリング、水泳（シンクロ）
テニス、卓球、体操（男子）、体操（新体操）

２００５年から全ての競技団体における競技者育成プログラムの実践

小学生チーム活動特集

小学生クラブの活動報告をご紹介いたします。

■香川町ハンドボールスポーツ少年団（香川県）

① 団体名・指導者名等

いつも全国小学生大会、及び西日本小学生大会等では皆様方に大変ご迷惑をおかけし、また、お世話になっています「香川町ハンドボールスポーツ少年団」（オリーブくん＆オリーブちゃん）です。

私は、団の代表をしています平木一令です。ハンドボールの経験は無に等しく、学生時代の体育での授業ぐらいでした。現在は、香川町役場に勤務していますが（団設立当時は教育委員会で社会教育・国体担当）、20数年前の私は、毎日毎日泥まみれになりながら「甲子園」を目標に練習をしていた高校球児でした。

私以外の現在の主たる指導者は次のとおりです。(みんな良い人ばかり)

＊木岡　弘
（会社員・国体等出場経験者）［子どもが全国大会出場経験］
＊西川　靖子
（主婦・国体等出場経験者）［子どもが全国大会出場経験］
＊内海　宏治
（町職員・元国体課、水泳で国体等出場経験者）［H13から子どもが全国大会出場］
＊藤田　浩一郎
（町職員・元国体課、ハンドボール経験者）［現在、社会教育担当］
＊小早川　道孝
（事業主・県協会常務理事・強化委員長）
＊奥田　新治
（香川銀行監督・県協会理事・オリンピック出場選手）

② 学年別団員数（平成13年7月1日現在）単位：名

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	3	3	6	2	7	3	24
女子	1	0	6	2	6	6	21
合計	4	3	12	4	13	9	45

③ チーム発足の経緯

香川町は香川県の中でもスポーツは盛んで、とりわけハンドボールにおいては関係の深い地でもあります。元ナショナルチームの監督、緒方嗣雄氏等を輩し、その伝統は連綿と受け継がれ地元中学校（町立香川第一中学校）においても古くからハンドボール部は存在していました。また、町内に県立香川中央高等学校が昭和62年4月に開校した際にも開校と同時にハンドボール部（男女とも）が設立され、両校とも目覚しい活躍をしていることは皆様も良くご承知のところであります。

この様な好環境が整っている香川町で、平成2年に全国中学校大会・平成5年に第48回東四国国体が開催されることになり、大会の成功を願いハンドボール競技のより一層の普及・啓発・促進を痛感せずにはいられませんでした。

そこで、町内にハンドボールのチームが存在していない一般と小学生に目を向け、チーム作りに取りかかりました。一般の方は、中高の父母及び体育指導委員等の経験者に声をかけ平成元年に「香川町ハンドボール連盟」を設立し、連盟設立当初から県リーグ等の大会に出場し現在に至っています。(町連盟会長の岡内正明氏は、「以前からハンドボール競技をもっとなんとかしたい」と考えておられたそうなので、すぐさま快諾を得ることができました)

しかし、小学生の方は、野球・バレーボール・バトミントン等といった全国大会でも優勝するようなスポーツ少年団が存在していました。また、各小学校にはボール・ゴールもなく、チームの設立は困難でした。丁度その頃、全国小学生大会の存在を知り、「全国大会に行こう！」をうたい文句に、平成3年6月に「香川町ハンドボール少年団」設立を決意し、町内にある3小学校に団員の募集協力を呼びかけました。(国体予算において各学校にボール・ゴール等を購入配布)

ところが、私も甘く見ていましたが団員は指導者の子ども等数名しか集まらず、大会出場どころか練習もできる人数でもありませんでした。大会までは1ヶ月と残されておらず思案しましたが、「結団を『決断』したからには何が何

でも…」と、他の競技をしていた子ら５、６人を借りて初出場！「今から思えば冷や汗もの！」ほとんどの子らが（私も）ルールを充分に知らず、当然成績は問題外の結果でした。しかし、負けた悔しさからか涙する子ども達を見て、「これなら何とかなる！」と確信を得ることができました。

④ 指導にあたっての留意点

指導者は子ども達が持っている特性を気づかせてやることが一番大切で、指導者の責務だと考えています。

「遊びながら、ハンドボールになじませる」結団当初からの団のモットーは今も変えていません。町内の３小学校区から集まる子ども達に「遊び心を重視して、校区を超えた学年の違う様々な仲間たちと交流を楽しみながら、のびのびとプレーさせる」現代の小学生にはこのことが最も必要と考えています。

日本協会等の関係多数の皆様方の努力により、「小学校学習指導要領」にハンドボールが平成10年初めて採用されたことは、大変喜ばしく、小学生期に必要であろう「走る」「跳ぶ」「投げる」「休むまもなく『攻める』『守る』」と、動き回るこのスポーツは基礎体力の向上に最も適したスポーツだと思われます。

私は、大会での勝敗には余りこだわりません。「メンバーさえ固定すれば…」と思いますが、勝敗にこだわると「一部の子どもしか試合に出られない！」といった結果になってしまいます。

大会へは希望者全員を連れて行きますので、何万円も負担して参加した限りは「必ず１度はゲームに出す」ことを約束しています。練習でも、キーパーをしたり、サイドをしたりとフォーメーションを決めることなく自由にさせています。上級生が下級生の面倒を見て指示をし、私たちはその善し悪しのみを指導しています。

私も、勝利や優勝を目標とする競技スポーツをしてきた者として否定するものではありません。しかし、今必要なのはハンドボールの楽しさをもっと覚え好きになることを望んでいます。

⑤ 地域社会と学校との連携・関わり方について

天皇陛下のご来臨を仰ぎ数々の思い出を残して大成功裡に終了した「東四国国体」を契機に「小学生西日本大会」を当町から開催、また岡山県を含む交流を兼ねた四国大会の開催も今年で４回目を迎えます。また、町内３小学校対抗の親善交流大会を開催するなど、町・協会等の援助・協力体制を仰ぎ現在に至っています。

練習場所が、ＯＢ・ＯＧのいる中学校のグラウンドを使用させてもらっているので、自然と中学生のプレーをみようみまねで行い中学生との交流も図れています。

ハンドボールスポーツ少年団として、学校、体協、町スポーツ少年団行事には積極的に参加しています。

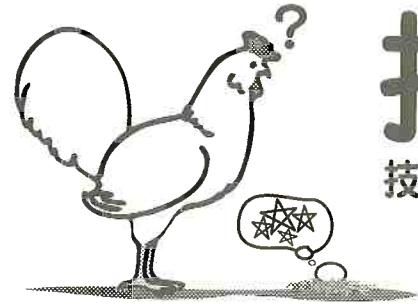
⑥ 練習メニュー

練習は、毎日曜日の１回だけ。朝の８時から10時までの２時間だけ（雨天の場合は中止になります）

(1)ランニング準備運動・10分　(2)フットワーク、ダッシュ＆ストップ、ステップ・20分　(3)キャッチボール・10分　(4)シュート練習、ボール出し・15分　(5)２対２、６対６のボール回し・15分　(6)休憩　(7)ゲーム「男子」「女子」「ちびっこ」・40分　(8)ダウン、ストレッチ・10分　(9)ミーティング、連絡事項の通知・５分、解散

＊ゲームは中学生や、父兄などと行うときもあります。

⑦ その他、現在の問題点、今後の目標等

大所帯になった今、低学年から高学年まであらゆるレベルの子ども達を十把一絡にして、ひとつのグラウンドの上で扱わなければならないところに問題が生じてきています。エリートを目指す子どもとそうでない子どもを完全に分けてしまうことは問題ですが、両方の育成をただ一つの枠組みでやろうとすることは不可能に近いです。エリートにはもの足りず、非エリートはついてこれません。

時節柄、当団においても財政難のあおりを受け財政面で非常に苦労しています。現在使用しているユニフォームも設団当初からのもので大変くたびれています。大会の参加等も町内の料理屋の大型バスを借り上げ、少しでも負担を少なくしようと苦慮しています。

今までの子どもたちの中にも「この子は中学校へ行けば文化部かな？」と思っていた子どもがインターハイ・国体等に出場するまでに努力、成長しています。

良き指導者は、「誉めて才能を伸ばす」とよく言われますが、残念ながら私は実行できていません。諸問題を抱えつつ、「健全な身体づくりと心づくりの指導」「誉めて才能を伸ばす」を心がけ、「今、ハンドボールが好き」な子ども達が今後、中学校・高校と進み活躍し、地元香川銀行等の中心選手となり、オリンピック選手が出る様を夢見て今後もがんばりたいと思います。

第26回日本ハンドボールリーグ日程表(前期分)

週	月日	開催地都道府県	会場	1部男子 時間	1部男子 組合せ	1部女子 時間	1部女子 組合せ	2部男子 時間	2部男子 組合せ
1	10月24日(水)	埼玉県	三郷市総合体育館	18:00	大崎電気vs大同特殊鋼				
	10月25日(木)	兵庫県	大阪ガス今津総合グランド					19:00	大阪ガスvsトクヤマ
	10月26日(金)	愛知県	豊田合成(株) 健康管理センター					17:00	トヨタ自動車vsＨＣ東京
								19:00	豊田合成vsインテックス21
	10月27日(土)	埼玉県	三郷市総合体育館	14:30	大崎電気vs本田技研				
		山梨県	塩山市民体育館			12:30	シャトレーゼvsブラザー		
						14:30	ムネカタvsメイプルレッズ		
		石川県	金沢市総合体育館			15:00	北國銀行vs日立栃木		
		京都府	京都府立体育館			15:00	オムロンvsソニー		
		島根県	温泉津町総合体育館	11:00	湧永製薬vs本田熊本				
		佐賀県	アラコ九州 クレインアリーナ	18:00	アラコ九州vsトヨタ車体				
	10月28日(日)	山梨県	塩山市民体育館			14:00	シャトレーゼvsメイプルレッズ		
						16:00	ムネカタvsブラザー		
		富山県	氷見市ふれあい スポーツセンター			14:00	立山アルミvs日立栃木		
2	10月31日(水)	福井県	北陸電力 福井体育館フレア	18:30	北陸電力vsトヨタ車体				
	11月1日(木)	広島県	中区スポーツセンター			18:30	メイプルレッズvsソニー		
		山口県	徳山市総合 スポーツセンター					18:00	トクヤマvsトヨタ自動車
	11月2日(金)	愛知県	豊田合成(株) 健康管理センター					19:00	豊田合成vsHC東京
	11月3日(土)	秋田県	湯沢市総合体育館			17:30	シャトレーゼvs北國銀行		
		栃木県	栃木市総合体育館			14:00	日立栃木vsブラザー		
		福井県	北陸電力 福井体育館フレア	15:00	北陸電力vsアラコ九州			13:00	インテックス21vs大阪ガス
		広島県	中区スポーツセンター	15:00	湧永製薬vs本田技研	13:00	メイプルレッズvsオムロン		
	11月4日(日)	岩手県	岩手県営体育館	14:00	大崎電気vs本田熊本				
		山形県	東根市民体育館			14:00	ムネカタvsシャトレーゼ		
		石川県	小松総合体育館			16:00	北國銀行vs立山アルミ		
	11月7日(水)	福井県	北陸電力 福井体育館フレア	18:30	北陸電力vs本田技研				

第26回日本ハンドボールリーグ日程表(前期分)

週	月 日	開催地 都道府県	会 場	1部男子		1部女子		2部男子	
				時間	組合せ	時間	組合せ	時間	組合せ
3	11月8日(木)	山梨県	塩山市民体育館			18:00	シャトレーゼvs立山アルミ		
	11月9日(金)	愛知県	豊田合成(株) 健康管理センター					19:00	豊田合成vsトクヤマ
	11月10日(土)	福井県	福井県営体育館	15:00	北陸電力vs大同特殊鋼				
		埼玉県	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:30	大崎電気vsトヨタ車体				
		愛知県	三好公園総合体育館			15:00	ブラザーvs立山アルミ	13:30	トヨタ自動車vsインテックス21
		広島県	東区スポーツセンター			18:00	メイプルレッズvs北國銀行		
		熊本県	鹿央町公民館			13:30	オムロンvs日立栃木		
		鹿児島県	ソニーセミコンダクタ 九州(株)体育館			13:00	ソニーvsムネカタ		
	11月11日(日)	熊本県	鹿央町公民館	15:10	本田熊本vsアラコ九州	13:30	オムロンvsムネカタ		
		鹿児島県	ソニーセミコンダクタ 九州(株)体育館			13:00	ソニーvs日立栃木		
	11月14日(水)	山口県	徳山市総合 スポーツセンター					18:00	トクヤマvsＨＣ東京
4	11月17日(土)	愛知県	知立市福祉体育館	15:00	トヨタ車体vs北陸電力				
		兵庫県	大阪ガス今津総合グラント					14:00	大阪ガスvsトヨタ自動車
	11月18日(日)	三重県	鈴鹿市体育館	14:00	本田技研vs本田熊本				
		愛知県	中村スポーツセンター	14:00	大同特殊鋼vs湧永製薬				
		佐賀県	アラコ九州 クレインアリーナ	15:00	アラコ九州vs大崎電気				
	11月23日(金)	福井県	北陸電力 福井体育館フレア	15:00	北陸電力vs湧永製薬				
5	11月24日(土)	佐賀県	佐賀県総合体育館	15:00	アラコ九州vs大同特殊鋼				
		熊本県	鹿本町民体育館	14:00	本田熊本vs大崎電気				
	11月25日(日)	東京都	駒沢屋内球技場					13:20	ＨＣ東京vs豊田合成
		愛知県	刈谷市体育館	15:00	トヨタ車体vs本田技研				
	11月30日(金)	愛知県	豊田合成(株) 健康管理センター					19:00	豊田合成vs大阪ガス
6	12月1日(土)	熊本県	八代市総合体育館	16:00	アラコ九州vs湧永製薬				
				17:40	本田熊本vs大同特殊鋼				
	12月2日(日)	福井県	北陸電力 福井体育館フレア	15:00	北陸電力vs大崎電気			13:00	インテックス21vsＨＣ東京

「がんばれハンドボール10万人会」8月継続・新入会会員の紹介

〔北海道〕小笠原　久美子
〔宮　城〕大河原　浩　気、古川商業高校(ニロ)
〔茨　城〕榎　本　雅　秀
〔千　葉〕金　牧　稔、鈴　木　秀　義
〔神奈川〕加　山　洋　子
〔山　梨〕栗　原　富貴子、天　川　正　次
土　橋　昭、有　泉　和　市
〔富　山〕旅　和　子、旅　文　夫
〔愛　知〕笹　野　邦　雄
〔岐　阜〕中　島　明　美
〔京　都〕吉　田　博　二
〔大　阪〕望　月　伸三郎、城　谷　昌　吾
〔岡　山〕小　橋　太
〔広　島〕青　戸　克　好、木　村　滋
郷　田　典　秀、田　中　壮　二
広　住　誠、両　徳　良　樹
今　田　博、山　本　康　則
河　本　幸　男、復　光　静　江
藤　浪　さつき
〔福　岡〕伊　藤　康　雄
〔長　崎〕新　井　善　文
〔熊　本〕緒　方　政　行
〔宮　崎〕有　田　二　郎、中　川　栄　一
巣　立　勝　弘、渡　邊　正　徳

「JHL」ニュース定期購読のご案内

全国ハンドボール・ファンの皆さん、そして日本ハンドボールリーグファンの皆さん、今年も日本リーグの開催が近づいてまいりました。

26回の大会は、今まで以上に世界のトッププレーヤーが登場して、ハイレベルの試合が展開されます。今年度の日本リーグは10月24日㈬に開幕し、来年3月17日㈰のプレーオフ決勝まで、全国各地で熱戦が繰り広げられます。

この日本リーグの熱戦の結果速報、個人記録、さらには次週の展望などの豊富なメニューでタイムリーな情報を皆様にお届けできるのは「ＪＨＬニュース」だけです。

［特　典］
購読のお申し込みをいただいた方には、特典として第26回ハンドボールリーグ総合プログラムをプレゼントさせていただきます。プログラムには、チームの選手紹介、試合スケジュールが載っております。また、素敵なプレゼントが当たるファン投票カードがついております。サイズは携帯に便利なポケットサイズです。

［発行予定］
2001年10月～2002年3月　計21回(予定)
＊回数に変更があるかもしれません。

［購 読 料］
期間購読4,800円(郵送料込)

［申込方法］下記までお問い合わせ下さい。
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1
日本ハンドボールリーグ事務局
☎03-3481-2361　担当・中嶋

［NHK TVスポーツ教室放映］

10月13日㈯に、ＮＨＫ ＴＶスポーツ教室において、ハンドボールが放映されます。
内容は、現在日本協会が取り組んでおりますナショナルトレーニングシステム（ＮＴＳ）の指導について取り上げます。指導は、女子ジュニアナショナルチーム監督（ブラザー工業監督）田中俊行氏。

［10月の行事予定］

〈会　議〉
10月8日㈯　常務理事会　東京
10月13日㈯　全国理事長会　仙台

〈大　会〉
第56回国民体育大会　10月14日㈰～18日㈭
宮城県大和町、富谷町、大郷町、大衡村

HAND BALL CONTENTS OCT

柔らかな感触で、最適なバウンド！

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円

明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四二三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十三年九月二十六日印刷 平成十三年十月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振[illegible]〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三二〇〇円